

平成26年度

事業報告書
決算書



けん引式車いす補助装置「ジンリキ」(貸出備品)でおでかけ(5/19 びすたりライフ)

社会福祉法人 大町市社会福祉協議会

平成26年度

事業報告書



神城断層地震の被災者宅で破損した家財を運び出す災害支援ボランティア（11/30 美麻地区）

社会福祉法人 大町市社会福祉協議会

目次

I 地域福祉推進基盤の強化

1. 法人運営基盤の強化(P1)
 - (1) 法人運営事業
 - (2) 会員組織強化事業
 - (3) 赤い羽根共同募金運動推進事業
2. 災害時支援態勢の整備(P14)
3. 生活課題の調査・研究(P14)
4. 公益事業の推進(P15)

II お互いさまのまちづくり

1. ふれあいのまちづくり事業(P17)
 - (1) ご近所支え合い事業
 - (2) 小地域福祉ネットワーク事業
 - (3) 地区社協連携強化事業
 - (4) 市民ふれあい広場の開催
2. ボランティア活動推進事業(P23)
 - (1) ボランティアセンター運営事業
 - (2) ボランティア活動相互連携事業
 - (3) 災害ボランティア支援態勢整備事業

III 安心して暮らせるまちづくり

1. 生活支援活動の推進(P27)
 - (1) 各種相談事業
 - (2) 福祉輸送サービス事業
 - (3) 日常生活自立支援事業
 - (4) 豊かな暮らし応援事業
2. 高齢者福祉活動の推進.....(P31)
 - (1) 生活支援ホームヘルプサービス事業
 - (2) 生きがいデイサービス事業
3. 介護保険事業の推進(P32)
 - (1) 居宅介護支援事業
 - (2) 訪問介護事業
 - (3) 訪問入浴介護事業

- (4) 通所介護事業
 - ① デイサービスひなたぼっこ
 - ② デイサービスこすもす
 - ③ デイサービスみさか
 - ④ デイサービスみあさ

4. 障がい者福祉の推進(P37)
 - (1) 障がい理解促進事業
 - (2) 障がい者余暇活動支援事業
 - (3) 障がい者就労支援事業
 - (4) 地域生活支援事業
 - ① 障害福祉サービス計画支援事業
 - ② 大北圏域障害者相談支援事業
 - ③ 療育支援事業
 - ④ 障害者地域活動支援センター事業
 - ⑤ 移動支援サービス事業
 - ⑥ 日中一時支援事業
 - ⑦ いこいの家事業
 - (5) 障がい福祉サービス事業
 - ① 障がい者居宅介護事業
 - ② 多機能型障害福祉サービス事業
5. 経済的支援活動の推進(P46)
 - (1) 資金貸付事業
 - (2) 災害見舞金等支給事業
 - (3) 生活困窮者等自立支援モデル事業

IV 受け継がれるまちづくり

1. 福祉における福祉意識の啓発 ..(P50)
 - (1) 福祉情報発信事業
 - (2) 地域福祉意識啓発事業
2. 地域の担い手育成(P52)
 - (1) 福祉教育推進事業
 - (2) 企業ボランティア育成事業
3. 地域福祉活動団体の育成(P53)
 - (1) 小地域福祉ネットワーク活動推進事業
 - (2) 地域福祉活動団体育成事業

I 地域福祉推進基盤の強化

地域で活躍する関係者の参加と協働のもと、法人運営基盤の強化、災害時支援態勢の強化、生活課題の調査・研究に取り組み、地域福祉推進基盤の強化に努めました。

1. 法人運営基盤の強化

地域福祉を推進する中核組織として、関係者の合意を得ながら、財政基盤の強化と福祉人材の確保・育成に取り組み、法人運営基盤の強化に努めました。

(1) 法人運営事業

◆ 安定した法人運営

定例の三役会や所属長会議、理事会・評議員会を開催し、変動する地域社会の情勢に対し柔軟かつ的確な対応に努めました。

① 三役会の開催

毎月1回三役会を開催し、法人の円滑な事業運営を図るための協議を行いました。

② 所属長会議の開催

毎月1回各事業所の代表による所属長会議を開催し、各種事業運営に必要な協議を行いました。また、併せて安全衛生委員会を開催し、各職場の安全衛生管理に努めました。

③ 理事会の開催

回数	期 日	内 容		
第1回	5月29日	報告	第1号	欠員に伴う理事の選任について
		議案	第1号	平成25年度事業報告の認定について
			第2号	平成25年度一般会計決算の認定について
			第3号	平成25年度公益事業特別会計決算の認定について
			第4号	平成25年度就労支援事業特別会計決算の認定について
			第5号	小口資金貸付に伴う不能欠損処分について
第2回	9月19日	報告	第2号	欠員に伴う理事の選任について
		議案	第6号	小口資金貸付に伴う不能欠損処分について
			第7号	平成26年度第1次補正予算について
		協議	第1号	社会福祉功労者の選考について
第3回	3月19日	報告	第3号	欠員に伴う理事の選任について
		議案	第8号	小口資金貸付運営要綱の一部改正について
			第9号	平成26年度第2次補正予算について
			第10号	平成27年度事業計画について
			第11号	平成27年度予算について

④ 評議員会の開催

回数	期 日	内 容		
第1回	5月29日	報告	第1号	欠員に伴う理事の選任について
		議案	第1号	平成25年度事業報告の認定について
			第2号	平成25年度一般会計決算の認定について
			第3号	平成25年度公益事業特別会計決算の認定について
			第4号	平成25年度就労支援事業特別会計決算の認定について

回数	期 日	内 容		
第2回	9月19日	報告	第2号	欠員に伴う理事の選任について
			第3号	社会福祉功労者の選考結果について
		議案	第5号	平成26年度第1次補正予算について
第3回	3月19日	報告	第4号	欠員に伴う理事の選任について
		議案	第6号	小口資金貸付運営要綱の一部改正について
			第7号	平成26年度第2次補正予算について
			第8号	平成27年度事業計画について
			第9号	平成27年度予算について
			第10号	理事及び監事の選任について

【評価】

- 三役会・所属長会議では、法人全体の事業運営に関わる案件について随時協議し、課題解決と情報共有を図ることができた。
- 理事会・評議員会では、議案資料早期送付と分かりやすい説明に心がけたことで、活発な討論をいただくことができた。
- 今年度は専門部会に諮問する案件がなかったが、今後必要に応じて開催し、各専門分野における課題解決に向けて協議していく。

◆ 主な会議・行事等

期 日	内 容	会 場
4月 1日（火）	たんぽぽ棟竣工内覧会	総合福祉センター
4月11日（金）	市制施行 60 周年・合併 10 年記念実行委員会出席	市役所
4月14日（月）	生活・就労支援センター（まいさぽ）開所式出席	松本市
4月17日（木）	県市町村社協事務局長会議出席	長野市
4月23日（水）	大北介護保険事業者連絡協議会理事会開催	総合福祉センター
4月24日（木）	市民児協全体会出席	市役所
4月28日（月）	市町村共同募金委員会事務担当者会議出席	松本市
5月 9日（金）	市民ふれあい広場幹事会開催	総合福祉センター
5月13日（火）	ボランティア団体助成金説明会開催	//
5月23日（金）	指定障害福祉サービス事業所日帰り旅行実施	伊那方面
//	県社協評議員会出席	長野市
5月25日（日）	大町ロータリークラブ車両贈呈式出席	くろよんロイヤルホテル



「たんぽぽ棟」竣工内覧会（4/1）



大北生活・就労支援センター
「まいさぽ大町」開所（4/14）

期 日	内 容	会 場
6月 6日 (金)	大北ブロック社協事務局長会議出席	総合福祉センター
6月11日 (水)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会研修会開催	JA 大北大町アブロード
6月13日 (金)	共同募金会大町市支会委員会開催	総合福祉センター
6月18日 (水)	安全衛生委員会総会開催	//
6月19日 (木)	総合福祉センター運営懇話会開催	//
6月21日 (土)	大北地区障がい者運動会参加	市総合体育館
7月11日 (金)	市民ふれあい広場実行委員会①開催	総合福祉センター
7月29日 (火)	市民児協全体会出席	市役所
8月 1日 (金)	男性料理教室開催	常盤公民館
//	県共同募金会評議員会出席	ホテル信濃路
8月 2日 (土)	やまびこまつり社協連参加(一般参加者含む 73 名)	市内中央通り
8月 8日 (金)	県社協トップセミナー出席	松代ロイヤルホテル
8月18日 (月)	防災訓練実施	総合福祉センター
//	社協賃金制度説明会開催(松本大学に講師依頼)	//
8月22日 (金)	大北ブロック社協職員研修会出席	小谷村
8月26日 (火)	ボランティアセンター運営委員会開催	総合福祉センター
9月 5日 (金)	障がい者希望の旅実施	山梨方面
//	大北ブロックボランティア地域活動フォーラム実行委員会出席	小谷村
9月10日 (水)	第 63 回長野県社会福祉大会参加(20 名)	茅野市
9月12日 (金)	共同募金会大町市支会委員会開催	総合福祉センター
9月19日 (金)	理事会・評議員会開催	//
9月24日 (水)	ブロック代表社協連絡会議出席	長野市
//	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会開催	総合福祉センター
9月26日 (金)	市民ふれあい広場実行委員会②開催	//
10月 4日 (土)	共同募金街頭募金実施	市内大型店2カ所
10月11日 (土)	市民ふれあい広場開催(大船渡さんまつり実施)	文化会館周辺
10月15日 (水)	県社協事務局長会議出席	県総合教育センター
10月16日 (木)	大北ブロックボランティア地域活動フォーラム出席	小谷村
10月22日 (水)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会開催	総合福祉センター
10月24日 (金)	中間監査実施	//
//	サロンボランティア講座①開設	//
10月30日 (木)	サロンボランティア講座②開設	//



やまびこまつり「社協連」(8/2)



第 63 回長野県社会福祉大会(9/10 茅野市)

期 日	内 容	会 場
11月15日(土)	県高嶺倶楽部東北復興祈念植樹ボランティア随行 (ふれあい広場義援金目録贈呈) ～16日(日)	岩手県大船渡市
//	市戦没者追悼式出席	大町公民館分室
11月18日(火)	社協役員先進地視察研修実施	上田市
11月25日(火)	神城断層地震応援スタッフ派遣～12/6	白馬村・小谷村社協
11月27日(木)	神城断層地震災害ボランティア相談窓口設置	総合福祉センター
12月 3日(水)	介護保険事業者実地指導受入	デイみさか
12月 8日(月)	神城断層地震災害見舞金支給	美麻地区
12月27日(土)	共同募金街頭募金実施	市内大型店2カ所
12月29日(日)	入浴サービス実施(機械浴)	デイこすもす
//	公衆浴場臨時営業 10:00～17:00(50人)	総合福祉センター
12月30日(月)	入浴サービス実施 9:00～12:30	デイひなたぼっこ、み さか、みあさ
//	公衆浴場臨時営業 10:00～17:00(93人)	総合福祉センター
1月 3日(土)	公衆浴場臨時営業 1:00～5:00(140人) (お年玉無料開放デー&おしるこ振る舞い)	総合福祉センター
1月 9日(金)	気仙沼市より義援金受領(松川村社協経由)	//
1月16日(金)	福祉標語審査会開催	//
1月31日(土)	市ボランティア交流研究集会開催(170人)	サン・アルプス大町
2月10日(火)	市民児協全体研修会出席	市役所
2月18日(水)	相続知識講座開設①「相続の基礎」	総合福祉センター
2月25日(水)	相続知識講座開設②「遺言とは」	総合福祉センター
//	市町村共同募金委員会事務局長会議出席	松本市
2月27日(金)	市ボランティアリーダー研修会開催(42名)	総合福祉センター
//	県内ブロック代表社協会議出席	佐久市
3月 2日(月)	介護報酬改定・介護保険制度改正説明会出席	キッセイ文化ホール
3月 3日(火)	市ボランティアセンター運営委員会開催	総合福祉センター
//	大北社会福祉事業協会評議員会・理事会出席	大北福祉会館
3月 4日(水)	相続知識講座開設③「エンディングノートを書こう」	総合福祉センター
//	日自支援事業専門員研修連絡会議出席	長野市
3月11日(水)	相続知識講座開設④「成年後見制度と相続税の概要」	総合福祉センター
3月17日(火)	県共同募金会総合企画部会出席	長野市



東北復興祈念植樹ボランティア(11/15 大船渡市)



ボランティアリーダー研修会(2/27)

◆ 寄付採納

① 寄付者一覧（寄附金）

多方面から寄せられた多くの寄附金は、ボランティア基金に積立て、ボランティアセンター運営委員会で使途を協議したうえで取崩し、寄付者の意向を尊重しながら有効活用を図っています。

期 日	金 額（円）	寄付者（敬称略）
5月 3日	56,200	大町ソフトボール連盟
5月19日	1,998	長沢朝子
6月16日	500,000	匿名
6月30日	10,000	大町高校
7月 7日	50,000	降幡芳夫
8月18日	20,000	大町市元議会議員の会
9月10日	50,000	降幡芳夫
10月 2日	10,000	匿名
10月17日	10,000	陶芸の家
10月20日	50,000	降幡芳夫
10月30日	40,000	大糸タイムス友の会
10月30日	8,293	大北建設労働組合
11月10日	50,000	降幡芳夫
11月10日	18,087	相生町老人クラブ長生会
11月28日	30,000	大町黒部
12月24日	100,000	大町市老人クラブ連合会
1月14日	15,000	88ボランティア
2月 4日	30,000	大町青年会議所シニアクラブ
2月 5日	1,232	匿名
2月27日	34,687	大町市婦人会
3月11日	312	匿名
3月16日	80,000	昭和電工(株)大町事業所
合計	1,165,809	

② 寄付者一覧（物品）

寄付物品は本会の事業で活用したほか、食品や消耗品は管内の福祉施設に配布しました。

期 日	物 品（数量等）	寄付者（敬称略）
4月 9日	布団カバー、生地	塩島智子
4月28日	ポータブルトイレ	佐藤一重
5月 7日	紙おむつ一式	勝川正志
6月10日	アルミ缶ソフトドリンク	昭和電工(株)大町事業所
6月13日	庭木2本	白本孝行
6月29日	タオル、日用品多数	神栄町女性部
9月 1日	カラオケ1番&スเปアマイクセット	合津富吉
9月 3日	シルバーカー	高橋恭男
9月26日	毛糸多数	曾根原律子
10月15日	毛布、シーツ多数	吉澤鈴子
11月 5日	金のなる木1鉢	寺島常十
11月 8日	車いす掃除セット	(財)信越郵便局長協会
11月13日	毛布、座布団	櫻井由美子
11月28日	カレンダー	信光実業(株)大町支店
12月 5日	リンゴ20箱	降旗章

期 日	物 品（数量等）	寄付者（敬称略）
12月24日	車いす、シルバーカー各1台（5万円相当）	日本禁煙友愛会大町支部
12月24日	門松2本	北澤学
2月 3日	缶缶クラッシャー（7.5万円相当）、 跳ね上げ式車いす（2.5万円相当）	大北法人会大町支部



大北法人会大町支部より缶缶クラッシャー・車いす寄贈（2/3）

③ 義援金一覧

各受付期間中に義援金箱を設置し、集まった義援金は各募集機関へ送金しました。

送金日	金 額（円）	義援金の内容
12月25日	11,985	広島県大雨災害義援金
3月31日	23,020	7.9南木曾町豪雨災害義援金
3月31日	41,078	東日本大震災義援金第9次（4月～3月社協受付分）

※ このほか、大町東小学校より東日本大震災義援金72,599円を預かり、岩手、宮城、福島、茨城の4県に送金しました。

④ 神城断層地震義援金

大町、美麻、八坂総合福祉センター内に義援金箱を設置し、集まった義援金は大町市へ送金しました。

受付期間	金 額（円）	義援金の内容
11月28日～ 3月31日	195,732	神城断層地震義援金



シニア大学より神城断層地震義援金受領（12/19）

◆ 財政基盤の強化

定期監査を実施するとともに、財源確保と経費節減に努めました。

① 定期監査の実施

半期ごとの定期監査を実施し、資産・負債の残高や予算執行状況について確認するとともに、指摘事項改善の取り組みを通じて、適正な業務執行態勢の整備に努めました。

期 日	指摘事項等	改善事項等
平成25年度 決算監査 5月21日（水）	補助・受託事業と自主事業とを明確に区分し、不足財源の負担について行政と協議を	決算書の概要を、総務企画課・地域福祉センター所管事業と在宅福祉課所管事業とに区分して記載
	自主事業の経営は概ね良好。赤字の事業も経営努力が伺える。引き続き安定経営を	今後も事業量を正確に見積もりながら、必要最小限の支出に努める
	経理規程改正により会計職員の役割と責任が明確になった。改正後の規定に従い適正な会計処理を	今後も拠点区分別に会計責任者と会計職員を明確にし、適正な会計処理に努める
	積立金が目的別に分割設置された。それぞれの目的に沿って有効活用を。特に人件費積立金で処遇改善を	積立金の目的に沿って有効活用していく。処遇改善については、検討チームで検討していく
平成26年度 中間監査 10月24日（金）	税理士への相談態勢整備は好ましい。監査時には税理士の意見を	監査前の税理士による確認の際に意見を伺う
	25年度決算時の期末残高と26年度の前期期末残高の不整合について、理事会・評議員会で簡潔に説明を	新会計基準への移行に伴い、支払資金の範囲が変更になったことによるもの。補正予算及び決算時に説明
	購入や発注のルールづくりについて、検討を（煩雑にならない程度に）	今後検討のうえ契約に関する細則等を整備する
	法人会計外の各種団体の会計について、引き続き定期的な確認を	引き続き中間監査時に担当者より報告書の提出を求める
	外出行事等における職員の食事代の扱いについて、更に検討を	行事内容により対応が異なるため、今後検討のうえ基準を整備する
	人材不足が懸念される。地域の担い手育成等の職員体制の強化を	職員体制強化に向け、財源の確保に努める
	地域福祉事業に対する適正な補助金の水準を算定し、行政に要求を	地域福祉事業への自主事業財源充当の在り方について検討していく

② 予算執行状況の把握と経費節減の徹底

毎月の所属長会議において、各事業の予算執行状況を確認するとともに、各施設別の光熱水費の前年度対比を確認し、経費節減に努めました。また、以下の取り組みを実施しました。

項 目	実施結果・内容
総合福祉センター給湯設備の設定変更	洗い場等の水栓に直結していたエコキュートのお湯の配管設定を、浴槽水の循環ボイラーを経由して温めるように変更し、灯油の購入量を削減 ○ H25：3,819,690円→H26：2,995,704円（▲823,986円）
携帯電話の契約見直し	33台の携帯電話のうち、相談業務等で比較的通話量の多い携帯電話について、新設された「電話カケ放題プラン」に変更（1月分より変更） ○ 変更前：45,172円/月→変更後：37,855円/月（▲7,317円/月） （1台あたり1,147円/月）

③ 施設・設備等整備計画の策定

昨年度の設備整備等積立金の設置に伴い、計画的な固定資産の取得と維持管理を実施していくための施設・設備等整備計画を策定しました。

なお、計画には指定管理施設の整備項目についても、自己資金で整備するものと区分して定め、毎年度の予算要求の基礎資料としても活用していきます。

項 目	実施結果・内容
計画のねらい	施設・設備等の整備案件について、整備方法や必要経費等を年度ごとに定めることで、毎年度の予算への計上漏れを防ぎ、もって利用者及び職員の安全確保とサービスの向上、事業の効率的・効果的实施に資する
計画の期間	計画の期間は3か年とし、平成27年度を初年度とするが、その時々々の情勢に応じて随時見直しを行いながら、毎年度更新していく
主な計画の内容	<p>○ 自己資金（設備整備等積立金）による整備計画</p> <p>H27：軽車両1台、業務用冷蔵庫1台取得ほか 4,639千円</p> <p>H28：デイひなたぼっこ土地・建物取得ほか 12,918千円</p> <p>H29：送迎用車両3台、複合複写機取得ほか 14,968千円</p> <p>合計 32,525千円</p> <p>○ 大町市への整備要望計画</p> <p>H27：AED1台更新 130千円</p> <p>H28：大町特殊浴槽更新、美麻空調設備新設ほか 25,057千円</p> <p>H29：大町映像音響設備更新、照明LED化ほか 6,713千円</p> <p>合計 31,900千円</p>

【評価】

- 今年度より税理士による税務申告代理と会計処理の相談態勢が整備できた。
- 定期監査では、新会計基準への対応状況や目的別に設置した積立金の状況について、適切であるとの評価をいただいた。引き続き適正な事務処理に努めていく。
- 次年度より毎月の所属長会議を経営戦略会議と位置付けるとともに、全職員に経費節減の徹底と収益増加策の募集を呼び掛けていく。
- 策定した施設・設備整備計画に基づき、より計画的に施設・設備の整備を進めていく。

◆ 福祉人材の確保

研修機会の確保を通じて職員の資質向上に努めるとともに、職員の健康管理や処遇改善を通じて、福祉人材の確保に努めました。

① 職員の研修機会の確保と実施

各種研修会・説明会等への参加を通じて、職員の資質向上に努めました。

期 日	内 容	会 場
5月 1日（木）	相談支援業務新任研修（総務2名）	浅間温泉文化センター
5月15日（金）	レクリエーションセミナー（デイみあさ1名）	松本駅前会館
5月22日（木）	大町市民生委員協議会視察研修（総務2名） ～23日（金）	千葉県
6月 5日（木）	高齢者福祉協会研修会（デイこすもす1名）	長野市ホテル信濃路
6月19日（木）	障害者相談支援従事者初任者研修 (6/19・20・30、7/10・11居宅1名)	塩尻総合文化センター
6月24日（火）	新任職員研修（6/24、7/23・24デイこすもす2名）	浅間温泉文化センター
7月 2日（火）	老人ホーム等職員研修会（デイみあさ1名）	若里市民文化ホール
7月15日（火）	普通救命講習 ※ 内部研修	美麻総合福祉センター
7月17日（木）	介護支援専門員専門研修Ⅱ（7/17・18、8/27居宅1名）	県社会福祉総合センター

期 日	内 容	会 場
7月17日（木）	関東ブロック社協職員合同研究協議会（正規1名） ～18日（金）	栃木県
7月28日（月）	新任職員研修（7/28、8/28・29デイこすもす1名）	浅間温泉文化センター
7月29日（火）	権利擁護ネットワークセミナー（総務1名）	浅間温泉文化センター
7月31日（木）	介護支援専門員更新研修（7/31、8/1・29居宅2名）	県社会福祉総合センター
8月25日（月）	新会計基準決算研修会（総務1名）	塩尻市社会福祉協議会
9月11日（木）	認知症介護研修（デイこすもす1名）	塩尻総合文化センター
9月11日（木）	認知症介護実践研修 （9/11・12、10/1～3・24居宅1名）	塩尻総合文化センター
9月18日（木）	介護技術向上研修（訪問介護） ※ 内部研修	総合福祉センター
9月19日（金）	障がい者相談支援従事者現任研修 （9/19、10/2・3スクラム1名）	浅間温泉文化センター
9月25日（木）	福祉職員研修「中堅職員課程」（デイこすもす1名） ～26日（金）	浅間温泉文化センター
9月25日（木）	認知症基礎研修（デイみあさ1名）	トイーゴ
10月 2日（木）	危険物取扱者保安講習（ハ坂地域1名）	サン・アルプス大町
11月 5日（水）	苦情対応システム研修会（スクラム1名）	塩尻市レザンホール
11月20日（木）	伝筆講座（ハーモニー1名）	みるいで
1月 7日（水）	サービス管理責任者研修（多機能型1名）	松本勤労者福祉センター
1月28日（水）	介護支援専門員実務研修 （1/28～30、2/25～27総務・多機能型各1名）	浅間温泉文化センター

② 職員の健康管理、職場環境の形成

各職場における事故防止等の安全確保と、健康診断や産業医による職場巡視を行い、安全衛生管理に努めました。

● 安全衛生委員会の開催状況

期 日	内 容
4月15日（火）	① 借上車両契約更新について ② 自動車運転登録申請書の提出について ③ 平成26年度産業医の職場巡視日程について
5月13日（火）	事故報告、安全チェックリスト、安全衛生の取組・評価・改善報告について
6月17日（火）	講話「職場のメンタルヘルスについて」 吉原保健師
6月18日（水） （総会）	① 平成25年度安全衛生委員会事業報告について ② 平成26年度安全衛生委員会事業計画について
7月15日（火）	① 事故報告 ② 安全運転管理者講習の報告について ③ ハラスメント対策について ④ 普通救命講習について
8月12日（火）	① 講話「食中毒防止について」 管理栄養士 伊藤氏 ② 大町市総合福祉センター避難訓練について ③ AED定期点検について
9月16日（火）	① 講話「ちょこっと健康術」 峯村保健師 ② 秋の交通安全週間について
10月14日（火）	リスクアセスメント研修報告
12月16日（火）	年末の交通安全運動について
1月20日（火）	講話「COPD慢性閉塞性肺疾患について」 西沢保健師
2月18日（火）	講話「冬の健康管理」 西山保健師

● 定期健康診断の実施状況

実施方法	個別健診	集団健診	保健指導
対 象 者	35歳以上で健康保険に加入している職員	週労働時間20H以上で、個別健診の対象とならない職員	健康診断受診者のうち、生活習慣病の保健指導対象者
期 日	10～3月の各指定予約日	8月5日（火）	3月5日（木）
実施場所	市立大町総合病院	総合福祉センター	総合福祉センター
受診者数	87名	31名	4名

● 産業医の職場巡視の実績

事 業 場	総合福祉センター	八坂総合福祉センター	美麻総合福祉センター	デｲｯﾋﾞｾﾝﾀｰ ひなたぼっこ
期 日	10/28、3/10	9/9、1/27	8/26、12/16	7/22、1/20

③ 非正規職員への処遇改善手当の支給

非正規職員の勤労意欲の向上と雇用契約の継続を目的に、人件費等積立金を活用し、勤続手当及び処遇改善手当を支給しました。

名 称	勤続手当	処遇改善手当
算定方法	勤続年数に応じた月額（4/1現在） （1年：250円、2年：500円、3年：1,000円、以後1年につき1,000円ずつ加算、最高8,000円）	介護報酬及び自立支援給付費の半期ごとの処遇改善加算総額の8割を、対象職員の労働時間に応じて配分 （6月：82円/H、12月：84円/H）
支給対象者	勤続1年以上の嘱託・臨時・非常勤職員	週所定労働時間が20時間以上の嘱託・臨時・非常勤・登録職員
支給時期	毎 月	6月・12月
支給実績	2,569,680円	9,519,661円

【評価】

- 職員研修では、外部研修と内部研修を実施し、職員の資質向上を図ることができた。
- 安全衛生管理では、毎月の所属長会議内で安全衛生委員会を開催するとともに、定期健康診断や産業医の巡視を通じて職員の健康と職場環境の改善を図ることができた。
- 処遇改善手当の支給は、非正規職員の意欲向上につながっている。次年度は介護保険と障害福祉サービスの報酬改定により処遇改善加算率が引き上げられることから、更なる処遇改善について検討していく。

◆ 苦情解決機能の充実

社協の各事業所（13事業所）に苦情受付担当者を配置し、利用者や一般市民へ周知のうえ、福祉サービス利用にあたっての苦情の申し出などに対応しました。

また、苦情解決責任者と第三者委員（3名）を置き、社会性や客観性を確保しつつ、公明な苦情解決にあたるよう努めました。

【評価】

- 苦情受付体制は整備されているが、受付件数は僅かであり、特に第三者委員への相談案件はなかった。
- 日頃から市民や利用者の声を記録し、苦情を宝物として扱う雰囲気づくりに努めていく。

◆ 独自給与体系整備

独自給与体系整備に向けて検討チームを組織するとともに、松本大学准教授にアドバイザーを依頼し、検討会や勉強会を開催して検討を行いました。

検討の結果、これまで大町市との申合せに基づき、大町市の給料表を準用していた正規職員の給与体系について、給与規程細則（内規）を定め、独自の給与体系として整備しました。

● 独自給与体系整備検討の主な経過

期 日	内 容
6月26日	第1回検討会開催 （座長選出、検討背景説明、H25 職務分析結果説明、今後の検討態勢）
7月16日	アドバイザー（松本大学准教授）との打合せ
8月18日	賃金制度説明会開催 （基調説明「賃金制度を考える上で必要な視点」、素案提示、自由討論）
9月25日	第2回検討会開催 （素案に対する意見集計結果、基本給設定方針、コンサル依頼要否）
10月 7日	三役会へ経過報告 （素案に対する意見集計結果、議論の方向性、コンサル依頼不要）
12月12日	第3回検討会開催 （議論の方向性確認、市申合せ廃止・内規制定、今後のスケジュール）
12月15日	三役会へ経過報告（市申合せ廃止・内規制定、主任手当廃止、年末年始超勤手当）
12月16日	所属長会議へ経過報告（市申合せ廃止・内規制定）
1月20日	所属長会議へ報告（給与規程細則制定）
1月23日	第4回検討会開催 （介護・障害報酬改定の動向、完全週休2日制と特別休暇、資格手当）
3月27日	第5回検討会開催 （検討結果と次年度への申し送り）

【評価】

- 大町市との申合せを廃止し、独自の給与規程細則（内規）を定めたことで、大町市の給料表改正の影響を受けることがなくなった。
- 次年度以降もあらためて検討チームを組織し、非正規職員の処遇改善を含め、全ての職員が意欲を持って働ける給与体系の整備に向け、更に検討を重ねていく。

（2）会員組織強化事業

一般会費（1世帯あたり年額600円）7,750戸、特別会費（一人あたり年額3,000円）750人を目標に、会員の拡大と加入の促進に取り組みました。

会費は、ボランティア団体や地区社協・小地域福祉ネットワーク活動助成等の地域福祉推進活動に活用しました。

項 目	実施結果・内容
地域福祉関係者との連携による会員募集	○一般会費 4月に自治会長へ納入依頼文とチラシにより協力依頼 ○特別会費 7月の市民生児童委員協議会の役員会及び全体会において、収納協力を依頼
会費の用途についてのわかり易い広報	○一般会費 「社協おおまち4月号」と自治会配布チラシに会費の用途を掲載し、協力依頼 ○特別会費 「社協おおまち8月号」と会員募集チラシ（特別会費納入と活用方法を掲載）を配布 「社協おおまち12月号」に特別会員名簿を掲載

項 目	実施結果・内容
新たな会員メリットの検討	新たな会員メリットを職場内で募集し検討した結果、市民に社協活動や会費の使途について広く周知することで会員の拡大を図ることが重要であることを確認

● 年度別会員別会費の推移（過去5年間） （単位：円）

年度	一般会員（一般会費）			特別会員（特別会費）			
	世帯数	金 額	前年比	人数	金 額	前年比	
H22	7,974	4,784,400	97.8 %	748	2,244,000	110.3 %	
H23	7,987	4,792,200	100.2 %	754	2,262,000	100.8 %	
H24	7,859	4,715,400	98.4 %	771	2,313,000	102.3 %	
H25	7,744	4,646,400	98.5 %	766	2,298,000	99.4 %	
H26	7,673	4,603,800	99.1 %	771	2,313,000	100.7 %	

<p>【評価】</p> <p>○一般会費は、市役所での総合納入窓口と、平・常盤・社の各公民館の窓口で、全体の約60%の自治会から納入いただいた。引き続き、納入方法の周知を図り、納入負担軽減に努める。</p> <p>○特別会費は、目標額、前年対比ともにわずかながら上回る結果となった。さらに、地域に根差した社協事業への理解と周知を図り会員の増加に努める。</p>
--

（３）赤い羽根共同募金運動推進事業

赤い羽根共同募金は、各都道府県に設置されている共同募金会が実施主体であり、その下部組織として市町村支会が組織され、各地域での募金活動を実施しています。

市町村支会は地域住民で組織されますが、公平中立性の高い組織として大半の社協が事務局を担っており、本会も長野県共同募金会大田市支会の事務局を運営し、募金活動を実施しました。

項 目	実施結果・内容
募金目標額を達成する活動	昨年に引き続き卓上キャラクター募金箱、啓発用ポケットティッシュを活用した募金運動を実施 年末に追加の街頭募金を実施（12/27）
街頭募金の実施	市内大型店2カ所及び、市民ふれあい広場会場内にて実施 旧大町市内の4小学校へ協力を要請し、各校の児童が参加 ○ ザビック大町店（10/4）・・・西・東小学校児童 ○ カインズホーム大町店（10/4）・・・南小学校児童 ○ 市民ふれあい広場（10/11）・・・北小学校児童
広報・啓発	社協報に共同募金の活用内容を掲載（今年度は災害復興への活用） 協力いただいた企業・商店の寄付者名簿を掲載 ○ 社協報第172号（10/1）・・・募金運動開始（地域防災にも活用） ○ 社協報第174号（2/1）・・・募金お礼（大口寄付者名簿）
配分事業の周知	戸別募金依頼の際、募金活用先や活用事業内容を掲載した依頼文を配布 行政が行う戸別発送広報紙に合わせて、募金チラシを配布
組織改変への対応	全県的な動向等について、県共同募金会と情報共有

● 募金実績の推移 （単位：万円）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
募金額（送金額）	1,022	993	975	979	969

● 平成 26 年度共同募金配分金の内訳

(単位：円)

配分先		高齢者 福祉活動	障害児・者 福祉活動	児童・青少年 福祉活動	住民全般 福祉活動	合 計
ア：地区社協	大町地区	585,090	50,000	260,000	630,000	1,525,090
	平地区	290,000	60,000	220,000	473,284	1,043,284
	常盤地区	513,728	40,000	540,000	310,000	1,403,728
	社地区	433,083	0	60,000	30,000	523,083
	八坂地区	210,000	10,000	40,000	93,300	353,300
	美麻地区	62,000	20,000	45,000	50,325	177,325
イ：市社協		112,544	340,030	0	2,614,654	3,067,228
合 計		2,206,445	520,030	1,165,000	4,201,563	8,093,038

● 平成 26 年度市社協配分金事業の内訳

(単位：円)

事業名	配分金額	事業名	配分金額
福祉団体助成事業	330,000	希望の旅事業	246,030
市民ふれあい広場開催事業	500,000	福祉輸送サービス事業	206,544
社協報発行事業	1,022,954	心配ごと相談事業	63,800
災害見舞金等給付事業	337,900	ボランティアニュース発行事業	360,000
合 計			3,067,228

【評価】

- 目標額達成を強く意識し、年末に追加の街頭募金等を行った結果、昨年に引き続き目標額を達成することができた。
- 共同募金の有効活用の一つとして、「安心安全なまちづくり公募配分」を広く周知した結果、昨年の3団体を上回る10団体より申請があり、そのすべてが申請どおりに配分決定された。共同募金に対する理解促進のため、引き続き周知を図っていく。
- 組織改変については、県内各市町村支会においてもスムーズに進行していない状況にある。引き続き動向を注視し、どのような形で改変することがよいか研究していく。



市内小学生も参加した街頭募金運動（10/4）

あいさつや みんなのえ顔で 町づくり

（大町西小学校4年 滝田 稜真 さん）

平成 26 年度福祉啓発標語入選作品

2. 災害時支援態勢の整備

遠隔地社協、大田市、県社協、青年会議所等関係機関との連携や、福祉避難所の運営方法について情報共有や課題の検討を行い、災害時支援態勢の整備に努めました。

項 目	実施結果・内容
遠隔地社協との相互応援態勢づくり	遠隔地社協との災害時における相互応援態勢について、姉妹都市である氷見市社協に声を掛け、応援態勢の具体的な方法について検討していくことを確認
災害時職員初動マニュアル	職員初動マニュアルの職員参集方法を中心に内部で検討 福祉避難所の運営方法の明確化について、市と協議

【評価】

- 遠隔地社協との応援態勢づくりについて、氷見市社協と検討していくことを確認できた。今後具体的な相互応援方法について詰めていく必要がある。
- 福祉避難所の設置から運営の流れを明確化し、職員の役割分担を明記する必要がある。
- 早急に職員初動マニュアルを整備し、定期的な職員参集訓練を行うことが急務。
- 大北ブロック社協内での災害時相互応援協定を締結し、より身近な地域内での連携体制を強める必要がある。

3. 生活課題の調査・研究

座談会の開催や役職員視察研修を通じ、地域における生活課題の把握に努めました。

項 目	実施結果・内容
座談会の開催	<p>○期 日 7月18日(金)</p> <p>○テーマ 高齢者の食を考えてみませんか</p> <p>○内 容 高齢社会となった今、健康で豊かな生活を送るためには食生活は重要な要素。市内にお住まいのご年配の方にお集まりいただき、管理栄養士を司会に座談会を開催</p> <p>○意 見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動は大切だが、早朝食事前に運動することは良くない。 ・粗食とは、少ないおかずで食べるのではなく、いろいろな食材を適量食べること。 ・核家族化もあり、『食』の文化伝承もされなくなっている。
役職員視察研修の実施	<p>○期 日 11月18日(火)</p> <p>○視察先 上田市社会福祉協議会</p> <p>○参加者 17名(社協理事9名 地区社協理事5名 事務局職員3名)</p> <p>○内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンディングノートの導入から活用 ・有償福祉サービス事業について ・ボランティア地域活動支援センターについて ・災害ボランティアセンターについて ・ボランティア連絡協議会について

【評価】

- 座談会については、今後一層高齢社会が進展する中、食の大切さや間違った認識について、広報に掲載することにより啓発ができた。
- 視察研修では、「エンディングノート」や有償福祉サービスについて、先進地の貴重な話を伺うことができた。研修後、ボランティアセンターで「相続講座」を開講し、エンディングノートについてテーマとして取り上げたところ、多くの市民が受講し、一定の成果があった。
- 次年度中に中間年度における地域福祉活動計画達成状況について把握し、評価していく。

4. 公益事業の推進（指定管理施設の管理運営等）

指定管理申請にあたっての経営方針「誰もが安心して利用できる地域に根差した良質な施設経営」に従い、総合福祉センター3施設の管理運営を行いました。

項 目	実施結果・内容
良質な施設サービスの提供	<p>○利用者へのあいさつ及び親切な声がけを励行</p> <p>○施設内外の環境美化に努めるとともに緑化活動を実施 市民からの寄贈により、大町市総合福祉センター中庭にモミジを植樹</p> <p>○ホームページや広報により、施設の利用方法等を周知</p> <p>○館内を全館禁煙とし、分煙の徹底と喫煙マナーを啓発</p>
施設の適切な維持管理	<p>○設備の定期点検・保守点検を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灯油地下タンク気密試験（各施設：年1回） ・防災・防災設備点検（各施設：年2回） ・電気設備（大町・美麻：年6回 ※ 八坂は支所で実施） ・給排水・空調設備（各施設：年1回） ・自動ドア（各施設：年3回） ・エレベーター（大町：年4回 ※ 遠隔点検は毎月） <p>○特殊清掃（床・窓）の実施（大町：2回、八坂・美麻：各1回）</p> <p>○施設・設備の破損・故障への迅速な対応</p> <p>大町：循環ポンプほか11件（修繕費：293,349円） 八坂：床暖房コントローラほか8件（修繕費：285,336円） 美麻：循環ポンプ一式交換（修繕費：212,760円）</p> <p>入浴券売機が故障したため、一般入札を行い、リース契約により更新</p> <p>施設・設備等の計画的整備のため、大町市へ要望書を提出</p>
安心・安全かつ平等な施設運営	<p>○避難訓練・防災訓練の実施（各施設：年2回）</p> <p>○防犯・トラブル防止のため、巡回と掲示を実施</p> <p>大町の公衆浴場に関わる事故が3件発生し、うち1件救急搬送、2件は休養後に回復し帰宅</p>
利用者ニーズの把握とサービスへの反映	<p>○大町市総合福祉センター運営懇話会の開催（6/19開催）</p> <p>議 題（1）公衆浴場の利用促進について （2）意見箱「利用者の声」への回答について （3）1階エントランスホールの利活用について</p> <p>○管理日誌による利用者からの口頭意見・要望受付、対応</p>
施設の利用者増加策の実施	<p>○公衆浴場無料開放デーの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老の日無料開放デー（9/14 利用者138名） ・お年玉無料開放デー（1/3 利用者140名） <p>○年末年始の公衆浴場臨時営業</p> <p>12/29（10:00～17:00 利用者50名） 12/30（10:00～17:00 利用者93名） 1/3（13:00～17:00 利用者140名） ※ お年玉無料開放デーでは、おしるこの振る舞いを実施</p>
その他施設の利活用等	<p>○1階エントランスホールの市民への開放について、社協おおまちに掲載</p> <p>○昭和電工(株)大町事業所からの申し入れにより、3階健康増進コーナーにアルミ缶回収ボックスを設置</p>

● 各施設の利用状況

施設名	項 目	開設日数	利用実績
大町市総合福祉センター	公衆浴場	310 日	延 29,302 人 (94.5 人/日)
	会議室等貸館	359 日	延 1,988 団体 (5.5 団体/日) 延 20,293 人 (56.6 人/日)
八坂総合福祉センター	デイサービス	256 日	延 4,475 人 (17.5 人/日)
美麻総合福祉センター	デイサービス	256 日	延 4,003 人 (15.6 人/日)
	会議室等貸館	256 日	延 1,269 人 (24.9 人/日)

● 公衆浴場利用者の推移

(単位:人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
一 般	8,208	7,600	8,943	8,822	7,102
6 5 歳 以 上	16,726	17,159	18,290	19,099	19,310
障 害 者	2,291	2,481	1,905	2,210	1,844
小 中 学 生	650	869	1,021	1,306	906
優 待 券	—	2,055	1,873	315	140
合 計	27,875	30,164	32,032	31,752	29,302
利用料収入(千円)	6,979	6,974	7,252	7,173	6,474

● 貸館利用団体数の推移

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
貸館利用団体数(団体)	2,013	2,267	2,260	2,268	1,988
貸館利用人数(人)	19,627	19,545	20,554	19,979	20,293

【評価】

- 公衆浴場の利用者は、65 歳以上が過去最高となったものの、その他が激減したことから、利用料収入が過去 5 年間で最低となってしまった。
- 入浴券売機の更新により、高額紙幣が使用できるようになったほか、ボタン表示が見やすくなり、利用者から好評を得ている。
- 各施設ともに老朽化が進んでおり、今後修繕費の増大が懸念されることから、設備の更新や大規模改修について、大町市に計画案を示しながら要望していく。



大町市総合福祉センター中庭へのモミジ植樹 (6/13)



来場者へのおしるこ無料振る舞い (1/3)

Ⅱ お互いさまのまちづくり

地域における支え合いの輪を広げるため、ふれあいのまちづくり事業とボランティア活動推進事業に取り組みました。

1. ふれあいのまちづくり事業

地域における生活課題の掘り起こしと助け合い活動活性化のため、ご近所支え合い事業、小地域福祉ネットワーク事業、地区社協連携強化事業に取り組むとともに、市民ふれあい広場を開催しました。

(1) ご近所支え合い事業

日頃からの地域住民支え合いが災害時には大きな備えになることから、防災意識の向上と住民自らが地域を知り、地域の課題に向き合うことを意図して「災害時住民支え合いマップ作成」を推進しました。

項 目	実施結果・内容
マニュアルを活用したマップ作成支援	<p>○支え合いマップ作成マニュアルを活用した作成及び更新説明会の実施 16団体に対し、計18回開催（以下、実施団体） 常盤区長会/美麻地区社協/社地区社協/木崎自治会/大原2号団地自治会/ 上一住宅自治会/須沼自治会/大黒町自治会/東町自治会/青具自治会/桜田町自治会/大新田町自治会/美麻地区別懇談会/幸町自治会/新行自治会</p> <p>○災害対策基本法改正に伴う、行政との調整 期 日 3月10日（火） 担当課 福祉課、消防防災課 内 容 災害時要配慮者名簿とマップ作成について</p>
モデル地域の指定によるマップ作成支援	<p>○4地区で継続的作成を支援し、マップを作成 幸町自治会/大原2号団地自治会/木崎自治会/二重自治会</p>

● マップ作成自治会数の推移 (単位：団体)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
マップ作成済自治会数	3	11	14	15	19

【評価】

- 東日本大震災後、市内でも災害時の地域防災に対する意識が高まり、さらに、神城断層地震の経験から、より身近な問題となっている。
- 災害対策基本法改正に伴う要配慮者名簿の配布が始まることから、マップ作成時の活用を推進したいが、名簿が配布されることで、地域住民自ら情報収集することが少なくなり、マップ作成だけが目的となることが懸念される。作成する経過を重要視してもらえよう、作成する自治会に対して職員を積極的に派遣し、コーディネートしていく必要がある。



支え合いマップ作成マニュアル

(2) 小地域福祉ネットワーク事業

小地域福祉ネットワークの新規設立の推進と既存ネットワークの活動支援を通じて、地域住民が主体となって取り組む支え合い・ふれあいネットワークの構築に努めました。

項 目	実施結果・内容
新規設立に向けた地区説明会の開催	○ネットワーク設立の少ない八坂地区での説明会実施 期 日 4月23日(水) 対 象 八坂地区各自治振興会長 ○新規設立目標2地区に対し、3地区で新規設立(以下、新規設立自治会) 八坂地区石原自治会/八坂地区切久保自治会/美麻地区新行自治会
既設ネットワークへの支援活動の実施	○各ネットワークからの要請に基づき、職員派遣及び相談支援を実施 職員派遣 2ネットワーク(高見町、借馬) 相談支援 3ネットワーク(宮本、館ノ内、桜田町)
ネットワーク活動の周知	○「社協おおまち」への記事掲載(4/1発行第169号) ネットワークと自治会等既存地域組織との関係性について、インタビューを通じた周知記事を掲載

● ネットワーク数の推移 (単位: 団体)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
ネットワーク数	40	41	42	43	46

【評価】

- 担い手(後継者)不足により、活動そのものが継続困難となっているネットワークが増えてきている。
- 今後も高齢化は進み、介護保険の大幅な改正により、今まで以上に地域活動への期待が高まっている。小地域福祉ネットワーク活動の重要性、必要性を周知するとともに、新たな活動について提案していく必要がある。



南原町よつば会の活動(H27/5/5)



俵町いつわ会の活動(H27/5/7)

地域の輪 力を合わせて 広めよう

(大町東小学校6年 降旗 美宙 さん)

平成26年度福祉啓発標語入選作品

(3) 地区社協連携強化事業

市内6地区それぞれの住民が主体となり地域福祉活動を行っている地区社協との連携強化に努めました。

項 目	実施結果・内容
地区社協連絡協議会の開催	各地区社協との協議の結果、連絡協議会の開催は見送り、必要な案件については、その都度個別に協議
地区社協役員研修会の開催	○各地区社協会長を対象とした研修会を実施 期 日 6月23日(月) 研修先 宅老所「びすたりライフ」 内 容 宅老所とデイサービスセンターの違い

● 地区社協事務局の運営状況

3地区(大町地区、八坂地区、美麻地区)社協の事務局として、地区社協事業の運営を支援しました。それぞれ共同募金配分金、地区社協会費、市社協助成金等の財源を活用し、各地域の特性に応じた様々な事業を企画実施しました。(平地区、常盤地区、社地区は、各公民館が事務局)

項 目	実施結果・内容
大町地区社協	<p>○高齢者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者初夏の日帰りバス旅行(伊香保温泉方面 104 名参加) ・ふれあいいきいきサロン(年 48 回実施) ・大町地区敬老会支援 ・単位老人クラブを対象とした交流事業への補助(1 地区 栄町) ・単位老人クラブを対象とした運動広場整備活動への補助(1 地区 宮田町) <p>○障がい児・者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の開催(大町西小児童クラブとの交流会 参加者 59 名) <p>○児童・青少年に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三世代交流事業(年3回子どもまつり、保育園わら細工、児童センター) ・児童センターまつり共催 ・単位子ども会を対象とした交流事業への補助(13 地区 北原町、山田・北山田町、東中原町、大新田町、三日町、白塩町、中原町、東若宮町、宮田町、桜田町、大原町、南原町、堀六日町) ・単位子ども会を対象とした運動広場整備活動への補助(1 地区 大原町) <p>○住民全般に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域福祉ネットワークへの補助(22 地区) ・広報紙発行(年2回)
八坂地区社協	<p>○八坂支所との共催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの実施(5月～3月 17 会場で 44 回実施 265 名参加) ・サロンいきぬき体操教室(9回) <p>○高齢者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの会(年 5 回/44 名参加) ・八坂地区敬老会への協力、助成 <p>○地域福祉、福祉教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八坂小中学校普及校助成 小学校(みさかでお年寄りとの交流、花の苗を作り地域に頒布) 中学校(ガードレール磨き、ふるさと清掃、やまびこまつり等) ・ボランティア団体及び各種団体への助成 ・みさか納涼祭主催(三世代交流 200 名参加) <p>○地域団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八坂地区老人スポーツ大会への協力(7/3 開催 144 名参加)

項 目	実施結果・内容
八坂地区社協	<p>○住民全般に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域福祉ネットワークへの補助（1 地区） ・広報紙発行（年 2 回）
美麻地区社協	<p>○高齢者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニあそびり （軽体操・レクリエーション）年35回/延585名 ・うたごえ喫茶 4回 （ミニあそ参加者・デイみあさ利用者） ・買い物ツアー 年6回/延15名 ・一人暮らしの集い 年1回/26名 ・学校給食食べにいく会 4回/21名 ・高齢者会食会 年1回/16名 ・梨嶺美容院 年6回/延37名 ・美麻地区敬老会への協力 9/12開催 88名参加 <p>○障害者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あそびり教室 年2回/延19名 <p>○児童・青少年に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お手伝いし隊 春夏休み 7回延121名 ・社会福祉普及校補助 ・子ども会育成会助成 <p>○地域福祉ボランティアに関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロン支援 2各地区で開催 ・美麻ふれあいまつり 約500名 美麻夏祭りと同時に開催 ・災害時住民支えあいマップの推進 ・広報誌の発行 年4回 ・みあさサポーター養成講座 14名 中条なかちゃん 白嶺視察 ・住民懇談会 5地区

【評価】

- 慣例化している事業について、新しい要素を加え事業を改善した。（大町地区）
- 小地域福祉ネットワーク活動を積極的に推進し、2 地区で新規設立となった。（八坂地区）
- 各集落でサロンを実施する中で、一人暮らしの方の交流や生きがいがづくりを図るため、休会中であった一人暮らしの会を再開。集落の垣根を越えた交流ができた。（八坂地区）
- 地域の団体と連携しながら地域のニーズに柔軟に対応した事業が展開できた。（美麻地区）
- 地区住民に参加いただき、地域福祉の拠点である美麻総合福祉センターの開設 15 周年の節目に合わせ、15 メートルの巻き寿司で交流できた。（美麻地区）
- 市社協と地区社協事業の説明懇談会を実施し、地域住民のニーズを話し合うことができた。
- 住民組織である地区社協に対して多大な負担を強いることは難しい。負担の軽減を図りながら新たなニーズに基づいた事業の実施に努める。



わら細工で交流（12/19 はなのき保育園）



15mの巻き寿司で交流（3/27 美麻総合福祉センター）

(4) 市民ふれあい広場の開催

福祉、健康、子育て、生活環境など様々な分野からの参加団体による実行委員を組織し、市内の住民が一堂に会して「出会い」、「ふれあう」ことを目的に、市民ふれあい広場を開催しました。

また、市制施行60周年・合併10年記念事業として開催するとともに、東北復興支援イベントを継続実施しました。

項 目	実施結果・内容
実行委員会組織による企画・運営	4月10日(木) 市制施行60周年・合併10年記念事業担当国会議出席 5月 9日(金) 幹事会開催 7月10日(木) 市制施行60周年・合併10年記念事業担当国会議出席 7月11日(金) 第1回実行委員会開催 9月26日(金) 第2回実行委員会開催
ステージ発表、各ブース出展	○開会前イベント おらほのラジオ体操 ○オープニングセレモニー（福祉功労者表彰式） ○ふれあいステージ（8団体） 源流美麻太鼓/ひまわり・たんぽぽ・すずらんコンサート/大町北高吹奏楽部演奏/フィリピンダンスチーム「サンパギータ」/大道芸シャボン玉ショー/おお！マーチde体操/大町おどり/マハナアロハフラダンス
事業の企画・運営を通じた参加団体同士の連携強化	○市制施行60周年・合併10年記念事業との合同開催 ○東北復興支援イベントとして以下の内容呼びかけて実施 ・飲食の出店団体に対し、提供量の増を依頼 ・開会前イベントとして、おらほのラジオ体操を会場参集者で実施 ・33ブースに義援金箱を設置 ・「今が旬！岩手県大船渡さんまつりin大町」及び大船渡物産販売の実施（大町市社協ブース）

● 参加団体数の推移 (単位：団体)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
参加団体数	56	55	60	59	53



恒例となった開会前イベント「おらほのラジオ体操」
(ふれあいステージ)



「大道芸シャボン玉ショー」を楽しむ子どもたち
(ふれあいステージ)

● 参加団体名簿（順不同） 53団体 49コーナー

団体名（出展内容）	団体名（出展内容）
①市老人クラブ連合会（わら工芸作品展示販売）	②⑥市遺族会（お餅提供）
②救護施設れんげ荘（利用者作品展示販売）	⑦養護老人ホーム鹿島荘（バザー）
③ハーブの風共同作業所（自主製品販売）	⑧アースデイおおまち（パネル展示）
④大町市陶芸の家（陶芸作品販売）	⑨市食生活改善推進協議会（減塩料理試食）
⑤セルフビルドの会（おもちゃ修理ほか）	⑩社協障害福祉サービス事業所（自主製品販売）
⑥市立大町総合病院（ミニ検診ほか）	⑪大町市社協（炭火焼さんま提供）
⑦いけだ地域活動支援センターくわの木（自主製品販売）	⑫大町市社協（大船渡物産販売）
⑧男女共同参画コミュニケーター大町地区（パネル展示）	⑬市健康づくり推進委員会（パネル展示ほか）
⑨ゆずり葉の会（赤飯提供ほか）	⑭市身体障害者福祉協会（フランクフルト提供）
⑩池田町ハーブセンター（てる坊焼き販売）	⑮自動車整備振興会大町支部（マイカー無料点検）
⑪信濃大町つけものや（つけもの販売）	⑯パン工房わたぼうし（パンの販売）
⑫大町市婦人会（バザー）	⑰共同作業所がんばりやさん（自主製品販売）
⑬宗水会（お茶席）	⑱ばいはるちゃんにみとろ（クレープ販売）
⑭88ボランティア（お茶処）	⑲市消費生活センター（パネル展示）
⑮市日赤奉仕団（炊き出し試食）	⑳大町市くらしの会（パネル展示）
⑯大町保健福祉事務所（献血コーナーほか）	㉑市生活環境課（パネル展示）
⑰市母子寡婦福祉会（バザー）	㉒市子育て支援課（わんぱく広場）
⑱ホットネットひだまり（農産物販売ほか）	㉓市民課（パネル展示）
⑲ときわ農産物直売所かたくり（農産物販売）	㉔大町を愛する女性の会（映画上映）
⑳仁科台中学校PTA（バザー）	㉕大北歯科医師会（無料歯科検診）
㉑大北防犯協会連合会（パネル展示）	㉖マハナアロハフラダンス（ふれあいステージ）
㉒キャラメルジープ（焙煎コーヒー販売）	㉗大町おどり（ふれあいステージ）
㉓信州金熊温泉 明日香荘（おやき販売）	㉘市包括支援センター（ふれあいステージ）
㉔大北建設労働組合（木工広場ほか）	㉙フィリピンダンスチームサンバギータ（ふれあいステージ）
㉕特別養護老人ホームカトレヤ（わたあめ提供）	

【評価】

- 東北復興支援イベントとして3年目を迎え、市制施行 60 周年・合併 10 年記念事業との同時開催により、多くの来場者があった。
- 記念事業との同時開催により例年に比べ市民ふれあい広場として使用できる場所が限られ結果、参加を辞退する団体があり昨年より参加団体数が減少した。
- 神城断層地震発生により、継続している東北復興支援イベントについての検討が必要。



さんま 1,500 匹を焼き上げる
（大船渡さんまつり in 大町）



さんま焼きを待つ長蛇の列
（大船渡さんまつり in 大町）

2. ボランティア活動推進事業

ボランティア活動に誰もが気軽に参加できる環境づくりを推進するため、ボランティアセンターの機能強化とボランティア相互の連携、活動支援を行いました。

(1) ボランティアセンター運営事業

項 目	実施結果・内容																																																			
相談・登録・コーディネート機能の充実	○ボランティアに関する相談、連絡調整、ボランティア登録と情報提供 登録状況 88グループ 6,123人																																																			
ボランティアセンター運営委員会の開催	○ボランティアセンターの適正な運営を図るため、運営委員会を開催 第1回 8月26日（火）開催 12名出席 報告事項 平成26年度の取り組みについて 会議事項 寄付金の活用について 東日本大震災復興継続支援について ボランティアセンターガイドについて ボランティア交流研究集会について 第2回 3月3日（火）開催 10名出席 報告事項 平成26年度事業報告について 会議事項 平成27年度事業内容について ボランティア基金の活用について ボランティアセンターガイドについて 災害復興支援について																																																			
貸出備品の整備と貸出業務	○ボランティア基金を活用し、貸出備品として「けん引式車いす補助装置 ジンリキ」6台購入。総合福祉センターエントランスホールやボランティア交流研究集会に展示し、周知と活用を呼びかけ ○貸出用・福祉体験用車いす9台とシルバーカー3台、福祉輸送サービス送迎用車いす1台を購入 ○貸出備品の延利用件数（単位：件） <table><tr><td>品名</td><td colspan="2">車いす</td><td>ホップ・ジョーソ製造機</td><td>ポッチャ</td></tr><tr><td>件数</td><td colspan="2">80（13）</td><td>11</td><td>8</td></tr><tr><td>品名</td><td>テント</td><td>プロジェクター</td><td>ワイレスアンプ</td><td>スクリーン</td></tr><tr><td>件数</td><td>1</td><td>28</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>品名</td><td>ジンリキ</td><td>綿菓子製造機</td><td>小銭計数機</td><td>アイマスク</td></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>13</td><td>2</td><td>24</td></tr><tr><td>品名</td><td>点字器</td><td>ふれあいの箱</td><td>高齢者疑似体験</td><td>ゲーム用品</td></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>1</td><td>19</td><td>6</td></tr></table> （ ）内は車いす体験時使用台数 ○機材使用実績 <table><tr><td>コピー機</td><td>団体数 19団体</td><td>白 3,600枚</td><td>カラー 463枚</td></tr><tr><td>パソコン</td><td>団体数 8団体</td><td colspan="2">延 40回</td></tr></table>				品名	車いす		ホップ・ジョーソ製造機	ポッチャ	件数	80（13）		11	8	品名	テント	プロジェクター	ワイレスアンプ	スクリーン	件数	1	28	4	3	品名	ジンリキ	綿菓子製造機	小銭計数機	アイマスク	件数	7	13	2	24	品名	点字器	ふれあいの箱	高齢者疑似体験	ゲーム用品	件数	7	1	19	6	コピー機	団体数 19団体	白 3,600枚	カラー 463枚	パソコン	団体数 8団体	延 40回	
品名	車いす		ホップ・ジョーソ製造機	ポッチャ																																																
件数	80（13）		11	8																																																
品名	テント	プロジェクター	ワイレスアンプ	スクリーン																																																
件数	1	28	4	3																																																
品名	ジンリキ	綿菓子製造機	小銭計数機	アイマスク																																																
件数	7	13	2	24																																																
品名	点字器	ふれあいの箱	高齢者疑似体験	ゲーム用品																																																
件数	7	1	19	6																																																
コピー機	団体数 19団体	白 3,600枚	カラー 463枚																																																	
パソコン	団体数 8団体	延 40回																																																		



車いす補助装置「ジンリキ」



ワイレスアンプ



DVD 一体型プロジェクター

項 目	実施結果・内容
ボランティアに関する 各種保険窓口業務	○ボランティア活動保険の受付 Aプラン：1,185人、Bプラン：500人、天災Aプラン：53人 ○ボランティア行事用保険、福祉サービス総合補償保険等各種保険加入の 窓口業務
ボランティアセンター ガイドの作成	○ボランティア活動の周知やボランティア相談支援に活用するため、ボラ ンティア基金を活用してボランティアセンターガイドを作成 A3両面カラー刷り 500部
ボランティアニュース の発行	ボランティア活動に役立つ情報の提供や、福祉意識の啓発を図るた め、ボランティア情報紙を発行 年6回（奇数月1日発行）全戸配布 9,800部

● ボランティア登録団体数の推移 (単位：団体)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
登録団体数	78	83	84	83	88

● ボランティアニュースの発行内容

号 数	発行日	主な記事
161号	5月1日	・ボランティア塾参加者募集 ジンリキの貸出 点訳本録音図書紹介 ・ボランティア団体登録と助成金について
162号	7月1日	・男性の料理教室、一緒にお出掛けボランティア講座参加者募集 ・希望の旅参加者募集 芸能ボランティア募集
163号	9月1日	・いきいきサロンボランティア講座参加者募集 ・さんままつりボランティア募集 ボランティア活動フォーラム募集
164号	11月1日	・福祉啓発標語募集 ボランティア団体表彰 ・大雨・豪雨災害義援金募集
165号	1月1日	・災害支援ボランティア窓口開設 ボランティア交流研究集会開催 ・リクライニング車いす購入
166号	3月1日	・福祉啓発標語入選作品発表 ・ボランティア活動保険のご案内 ボランティアグループ紹介

【評価】

- ボランティアセンター運営委員会で、ボランティア基金の活用や新たな事業、復興支援活動等について、詳細を検討し実施することができた。
- 作成したボランティアセンターガイドを活用し、ボランティア相談支援時や自治会等地域に広く周知する必要がある。
- ボランティアニュースやホームページ、社協広報紙等に講座や助成金等のお知らせを掲載し、迅速な情報発信に努めた。



ボランティアセンターガイド

(2) ボランティア活動相互連携事業

項 目	実施結果・内容
ボランティア交流研究集会の開催	<p>開催日 1月31日(土)</p> <p>会 場 サン・アルプス大町 参加者 170人</p> <p>内 容 活動発表 3人 「支え合い・助け合える地域づくり」 南木曽町土石流災害・神城断層地震から考える 地域交流センター 副代表理事 中橋徹也氏 講演</p>
ボランティア団体相互の情報交換	<p>○ボランティアリーダー研修会の開催</p> <p>開催日 2月27日(金)</p> <p>会 場 大町市総合福祉センター大会議室 42人参加</p> <p>内 容 「脳トレをしよう」 レクリエーションインストラクター 種山正子氏</p>
大北管内ボランティアとの連携	<p>○大北ボランティア活動フォーラム参加 (事前に開催に向けた実行委員会を2回開催)</p> <p>開催日 10月17日(金)</p> <p>会 場 おたり開発総合センター 31人参加</p> <p>内 容 「もっと知りたい!地域の支え合い ～知ろう・学ぼう・やってみよう～」 事例発表 3団体 (ゆずり葉の会、なかちゃん、おたがいさまネットワーク)</p>

【評価】

- ボランティア交流研究集会では、神城断層地震での活動発表や講演を通じて、日頃からの防災意識や地域交流の大切さについて考える機会となった。
- これを受け、継続して有償ボランティアやサロン等の助け合い活動を地域とともに進める必要がある。




大町市ボランティア交流研究集会(1/31 サン・アルプス大町)

一人ずつ つなげていこう キズナの輪

(大町東小学校6年 宮嶋 航大 さん)

平成26年度福祉啓発標語入選作品

(3) 災害ボランティア支援態勢整備事業

項 目	実施結果・内容
<p>神城断層地震への対応</p> 	<p><大町市></p> <p>○美麻地区の被災宅へ安否確認及びニーズ調査を実施（2回） 1回目 52棟 2回目 56棟</p> <p>○11/27より災害ボランティア相談窓口を開設。ボランティア調整実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談受付 11件 ・ボランティア受付 43人登録 ・ボランティア活動件数 9件 活動者数 延17人 <p>被災者宅の片付けやごみの搬出や、アロママッサージの実施</p> <p>○大町・美麻・八坂総合福祉センターに義援金箱を設置し、義援金を募集</p> <p><白馬村></p> <p>○県内社協災害時相互応援協定に基づき、災害ボランティアセンターへ職員を派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間 11/25（火）～30（日）の6日間 ・人数 延11名 <p><小谷村></p> <p>○県内社協災害時相互応援協定に基づき、災害ボランティアセンターへ職員を派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間 12/5（金）～6（土）の2日間 ・人数 延2名 <p>○小谷村のボランティア受付を大町市ボランティアセンターでも実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間 11/25（火）～12/6（土）の12日間 ・ボランティア受付 62人登録 ・ボランティア活動者数 延58人
東日本大震災復興継続支援	<p>開催日 10月5日（土）</p> <p>会 場 大町市文化会館前広場</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大船渡市の生さんま 1500匹を網焼きし、振る舞う ・義援金の募集（324,305円を大船渡市社協に送金、後日職員が大船渡市を訪れ、大船渡市社協事務局長に目録贈呈） ・大船渡市特産品販売（売上金 459,500円） ・宮古市アピリティーセンター軍手販売（売上金 20,000円）
その他の災害時支援事業	<p>○県国際課主催の災害多言語支援センター設置・運営訓練に参加</p> <p>開催日 1月25日（日）</p> <p>会 場 大町市役所東大会議室</p> <p>内 容 災害ボランティアセンターと災害多言語支援センターの情報共有を始めとする連携訓練</p>

【評価】

- 市内で発生した災害として初のボランティア相談窓口を開設し、被災宅の安否確認やニーズ調査、ボランティア登録等の連絡調整を行うことができた。
- 県内社協災害時相互応援協定に基づき、管内の災害ボランティア活動を支援することができた。
- 今後も、定期的に研修を行い、災害時の支援態勢づくりや災害ボランティアに関わる人材を育成していく必要がある。

Ⅲ 安心して暮らせるまちづくり

日常生活で支援を必要とする人が、住み慣れた地域で暮らし続けるための各種在宅福祉サービス等を提供し、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが生きがいをもって「安心して暮らせるまちづくり」の推進に努めました。

1. 生活支援活動の推進

(1) 各種相談事業

「一人で悩むより、早目の相談が解決の第一歩です」と呼びかけ、日々の暮らしの中の大小の悩みごとについて、解決の糸口を相談員、相談者とともに見出す相談窓口を開設しました。

項 目	実施結果・内容
心配ごと相談	○毎月2回開設（前年度月4回） ○年間相談件数：73件（前年比8件増） ○相談内容別：財産に関するもの26件、土地家屋に関するもの23件、金銭貸借に関するもの8件、家族に関するもの6件ほか

● 相談所の開設状況

相談区分	会 場	開設日	開設時間	相談員数
心配ごと相談	総合福祉センター	月2回	13:00~16:00	2名
司法書士相談			13:00~15:00	1名

● 相談内容（法律相談含む）

（単位：件）

相談事項	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
	生計	土地家屋	家族	離婚	財産	金銭貸借	健康	近隣	苦情	その他	
	0	23	6	2	26	8	1	0	7	0	

● 相談件数の推移

（単位：件）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
相談件数	43	46	49	65	73

【評価】

- 心配ごと相談に訪れる方で、相談内容の多岐にわたっているのが現状。適切な助言ができたか多少不安もあるが、相談者とともに解決の糸口を探るように努めている。
- 相談者からは、「話してよかった」「相談して助かった」という声が届いている。
- 月2回の相談日としたため、相談者が集中する傾向があった。

やさしくね 「一人じゃないよ だいじょうぶ」

（大町北小学校3年 松澤 将大 さん）

「ごめんなさい」 ちょっとのゆうきで なかなおり

（大町東小学校3年 太田 瑞莉 さん）

平成26年度福祉啓発標語入選作品

(2) 福祉輸送サービス事業

一人では公共交通機関が利用できない人（要介護者や身体障がい者等）のための輸送サービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容
福祉輸送サービスの提供	毎週月～金曜日（祝日・年末年始を除く） 8:30～17:00 ○運行日数・回数 244 日・2,064 回 ○年度末利用登録者数 138 人 （うち新規登録者数 39 人）
福祉車両の貸し出し	社協会員を対象に、土・日曜日、祝日を中心に福祉車両を貸し出し ○件数 5件
利用方法の検討	①大町で利用時間が重なり運行できる車両がないときに、他の拠点の車両を使い運行 ②利用者の口座振替を推進したが、希望は少なかった
広報・啓発活動	利用方法を「社協おおまち」に掲載し、事業を周知

● 年度末利用登録者数の推移 (単位:人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
利用登録者	252	256	141	115	138

● 拠点別運行回数の推移

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
大 町	1,788	1,643	1,722	1,641	1,778
八 坂	576	668	690	462	162
美 麻	569	533	304	234	124
合 計	2,933	2,844	2,716	2,337	2,064

【評価】

- 運行回数は、大町は直近 4 年間で最も多かったが、国土交通省の福祉有償運送運転者講習修了者を増やし効果的な運行ができた。八坂・美麻は透析利用者の死亡などにより減少した。
- 利用時間が重なり運行できる車両がないときに、他の拠点の車両を使い運行したことで、利用者の希望に沿ったサービス提供ができた。
- 支払い方法については、利用者の意向を考慮しつつ検討していく。
- 「社協おおまち」による市民への周知や、居宅介護支援事業所への説明に努めていく。
- 福祉有償運送運転者講習を修了した運転手を増していく。また、移乗時に介助が必要な利用者が増えているため、将来的に運転手の介護資格の取得を検討していく。



(3) 日常生活自立支援事業

大北地域の基幹的社協として、判断能力が十分でない方（認知症、知的障がい、精神障がい等）の福祉サービスの利用援助や、日常の金銭管理等のサービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容
定期的な支援計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・3カ月に1度の見直し実施 ・カンファレンス等により支援方法の変更・見直し実施
判断能力低下が著しい利用者の成年後見制度への移行支援	高齢者、障がい者のための成年後見個別無料相談会及び社会福祉士会や司法書士会が主催する成年後見相談会に出席 ○相談対象利用者13名、うち本事業から後見制度への移行者2名
生活支援員の研修	県全体の生活支援員を対象とした研修に出席 ○1期目対象：8月22日(金) 松本市浅間温泉文化センター ○2期目以上：8月26日(火) 松本市浅間温泉文化センター
制度周知の広報活動	利用方法について、「社協おおまち」に掲載し、事業を周知

● 年度末契約者数・年間支援回数の推移

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年度末契約者数（人）	55	58	55	59	75
年間支援回数（回）	2,535	2,884	2,462	2,490	2,204

● 市町村別・対象者別契約者数（平成27年3月末現在）（単位：人）

対象者	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	合計
認知症高齢者	19	4	0	5	2	30
知的障がい者	13	0	0	0	0	13
精神障がい者	22	2	0	3	2	29
そ の 他	3	0	0	0	0	3
合 計	57	6	0	8	4	75

※ 松川村はH26より全市町村実施に向けた2年間のモデル社協に指定

【評価】

- 契約件数が増加している。特に認知症高齢者と精神障がい者で支援が必要な方の契約が増加傾向にある。
- 判断能力低下が著しい利用者については、関係機関と連携・情報共有しながら、成年後見制度への移行を順次進めていく必要がある。
- 利用者が増加していく中で、成年後見支援センター設置等を含め、今後の支援態勢について検討していく必要がある。

気持ちよく やさしい気持ちで 声かける

（大町北小学校3年 勝野 琴 さん）

「ごめんなさい」 しょうじきな心で すっきりと

（大町東小学校3年 降旗 星介 さん）

老人の知恵を生かして 若人と 地域社会にまちづくり

（一般の部 市川 尊典 さん）

平成26年度福祉啓発標語入選作品

(4) 豊かな暮らし応援事業

項 目	実施結果・内容
美麻診療所患者輸送業務	○運行日数 139日(毎週月・水・木曜日) ○年間延利用者数 680人(平均56人/月)
八坂美麻配食サービス配達業務	八坂・美麻地区内の高齢者等を対象に、各地域福祉センターを拠点とした配達ボランティアによる配食弁当の配達業務を実施 ○配達件数(八坂:延110件、美麻:延75件) ○ボランティア数(八坂:6名、美麻:1名)
高齢期安心生活支援	豊かで自分らしい生活を送るために役立つ講座として、「知って得する相続講座」を開催 ○開催日、内容、参加者数 ・第1回 2月18日(水) 相続の基礎 54名 ・第2回 2月25日(水) 遺言とは 84名 ・第3回 3月 4日(水) エンディングノートを書こう 54名 ・第4回 3月11日(水) 成年後見制度と相続税の概要 42名 ○場所 大町市総合福祉センター 大会議室 ○講師 相続手続き支援センター 専任相談員 清水あゆ子氏

● 美麻診療所患者輸送業務年間延利用者数の推移 (単位:人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年間延利用者数	824	737	798	842	680

● 八坂美麻配食サービス配達業務利用件数の推移 (単位:件)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
八坂地区	470	638	897	550	110
美麻地区	323	189	181	125	75
合 計	793	827	1,078	675	185

【評価】

- 美麻診療所患者輸送業務は、人口減とともに高齢患者が減少傾向にあるが、乗降時も補助しながら安全に送迎を行うことができた。
- 配食サービス配達業務については、該当地域の人口減少等により、利用件数が激減している。遠隔地への配食弁当の配達が困難な状況にあるが、業務の継続に努力する。
- 相続講座は、男女を問わず幅広い年代に関心があり、知識を深めてこれからの生活を有意義に過ごしたいと考える方が多く、4回のテーマ共に大勢の方の参加が得られた。
- 4回とも同じ講師を依頼したことにより、それぞれの講座につながりができ、わかり易い講座となった。復習や更なる知識を深めたいという声も多く聞かれた。
- 高齢期に有意義な生活を送るための知識を身に付けたいと感じている方が多いことから、講座の継続も検討する。



高齢期安心生活講座 ～知って得する相続知識～

2. 高齢者福祉活動の推進

年を重ねても暮らしに張りのある充実した在宅生活を継続できるよう、生活支援ホームヘルプサービスと生きがいデイサービスを提供しました。

(1) 生活支援ホームヘルプサービス事業

利用者の残存能力を引き出して自立を促し、意欲的な心身機能の維持向上に努めながら、家事援助等のホームヘルプサービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容	
生活支援ホームヘルプサービス	○開設日数	242日
	○平均契約者数	6人/月
	○年間訪問回数	306回（平均26回/月）

● 生活支援ホームヘルプサービス年間訪問時間数の推移 (単位：時間)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年間訪問時間数	408	360	420	252	306

【評価】

○ 生活意欲と心身機能の向上に努め、自立した生活が送れるようサービス提供ができた。

(2) 生きがいデイサービス事業

利用者の心身機能の維持向上に努めながら、生きがいづくりにつながるグループ活動サービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容	
デイサービスセンター みさか	○開設日数	224日
	○平均契約者数	3人/月
	○年間延利用者数	139人（平均11人/月）
デイサービスセンター みあさ	○開設日数	244日
	○平均契約者数	4人/月
	○年間延利用者数	227人（平均18人/月）

● 生きがいデイサービス年間延利用者数の推移 (単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
デイみさか	0	20	140	197	139
デイみあさ	397	207	179	148	208
合 計	397	227	319	345	347

【評価】

- 年間を通じ契約者の増減がみられた。短期間の利用者もあったため、前年度に対し稼働は減少した。
- 新規契約者の中にも、介護保険の該当になると想定される方も見受けられる。
- 新規申請者に独居高齢者のケースもあったが、市との連携で迅速な受け入れができた。

お年寄り 元気で暮らせる 大町市 笑顔でいっぱい あふれてる

(大町東小学校6年 門松 郁乃 さん)

平成26年度福祉啓発標語入選作品

3. 介護保険事業の推進

利用者、介護者の多様なニーズに応える柔軟性のあるサービス提供に努めました。

項 目	実施結果・内容
サービスニーズへの対応	○介護を要する課題が多様化する中、関係機関と連携し、対応に努めた
安定した事業運営	○介護ニーズの変化（利用者の施設入所、要支援利用者の増加等）から事業実績は減収傾向となった
人材の育成による質の高いサービス提供	○外部研修 職員派遣45会場 延86名 ○内部研修 開催14回 延229名 職員資質の標準化、向上に努めた

● 介護保険収入の推移

（単位：千円）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
介護保険収入	262,290	259,817	257,249	259,378	255,412

【評価】

○ 今後、多様なニーズに応える地域福祉づくりの一翼を担えるよう介護保険事業者として運営体制の整備が求められる。

（1）居宅介護支援事業

「利用者本位」と「自立支援」を基本に、利用者の状況に応じた迅速な対応に心がけ、より質の高いケアマネジメントに努めながら、居宅介護支援サービスを提供しました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月曜日から金曜日） ○年間延利用件数 1,063件（平均88件／月）
関係機関等多職種との連携強化	利用者等への支援体制を強化するため、退院・退所及び計画変更時等に、サービス事業者や医療・福祉等関係機関と情報を共有し連携に努めた
専門職としての資質、技術の向上	認知症介護実践研修（1名）、障がい者相談支援研修（1名）を受講したほか、大北圏域で開催される各種研修会等に参加し資質の保持・向上に努めた

● 年間ケアプラン作成件数の推移

（単位：件）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
要 支 援	31	71	111	149	130
要 介 護	989	1,027	1,047	996	933
合 計	1,020	1,098	1,158	1,145	1,063

【評価】

○ 新規利用者を上回る利用者の死亡や施設入所により当初収入目標を達成できず、2年連続で前年実績を下回ってしまった。
○ 独居や高齢者世帯等家族支援が得られないケースが増え、多様なニーズに対応するため、各種関係機関等の調整業務が増大している。地域で支えるネットワークづくりや関係機関との連携強化が必要となっている。

(2) 訪問介護事業

要介護・要支援状態となっても、能力の維持向上に努めながら、自立した在宅生活が住み慣れた地域で継続でき、介護者の負担軽減ともなる訪問介護サービスを提供しました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 365日（年中無休） ○平均契約者数 116人／月 ○年間訪問時間数 20,958時間（平均1,747時間／月）
希望に柔軟に対応できる介護員数確保	○新たに登録ヘルパー1名を確保
自立に向けた介護予防支援	○支援によって徐々にできることが増え、生活意欲の向上につながった
内部研修の実施による技術・資質の向上	○内外部研修を定例で実施し技術の習得、資質の向上に努めた ○個人差なく平準化できるよう更に研修を深めていく
利用者・家族との良好な信頼関係	○利用者の個性に合わせたヘルパー派遣を心がけた ○苦情等にも迅速な対応を行うことで、良好な信頼関係の構築に努めた

● 年間訪問時間数の推移 (単位：時間)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
要 支 援	2,802	3,271	2,740	3,102	2,695
要 介 護	19,811	18,085	18,081	19,254	18,262
合 計	22,613	21,356	20,821	22,356	20,957

【評価】

- 身体状況や介護負担により在宅での生活が困難となるケースが多く、施設指向・短期入所が増加し、実績は低迷傾向となった。
- 冬季は在宅での生活が難しい方が入所されることにより利用がさらに減少となった。
- 新規受け入れは積極的に行うが、時間帯の重複により利用者の要望に応えられない状況も生じている。ケアマネジャーとの密な連絡調整を図りながら対応していく。

(3) 訪問入浴介護事業

寝たきり等で入浴が困難な方に、自宅で安心して心地良く入浴していただくことを目的に、心身のリフレッシュと健康維持、また介護負担の軽減に努めながらサービスを提供しました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 250日（毎週月～金曜日） ○平均契約者数 12人／月 ○年間延利用者数 596人（平均49人／月）
サービス提供体制の充実	○提供に係る職員体制 ・看護師（通所介護事業所と兼務） ・オペレーター（通所介護事業所と兼務） ・介護員（通所介護事業所と兼務1名・専従の登録職員1名）
サービス提供実施地域外への対応（小谷村）	○（中山間地）小谷村へのサービス提供 ・25年度 契約者8名 利用回数 90回／年 ・26年度 契約者3名 利用回数 153回／年
新規利用者の確保	○ケアマネジャーとの連携 ・他介護サービスからの移行に迅速に対応することができた ・6月から要望があった木曜日を開設し、ニーズ調整に応じた

● 年間延利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年間利用件数	135	218	434	494	596

【評価】

- 依頼件数は、年々増加傾向にある。
- ケアマネージャーとの連携を更に強化し、利用者・介護者の要望に応えられるよう努める。

(4) 通所介護事業

利用者の心身機能の維持向上のため、機能訓練やレクリエーションサービスの充実を図り、また、ニーズに応じた柔軟な利用調整に努めながら、通所サービスを提供しました。

項 目	事業結果・内容
事業運営計画に基づいたサービスの提供	ニーズに応じたサービス提供ができるよう内容の検証と改善に努めた
心身機能の維持・低下の緩和・改善サービス提供	利用者状況と事業所特性を活かしたサービス提供に努めた

● 年間延利用者数の推移（要支援・要介護合算）

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
デイひなたぼっこ	1,877	1,940	1,952	2,321	2,598
デイこすもす	8,019	6,964	6,607	6,929	6,391
デイみさか	4,157	3,433	3,069	3,594	4,362
デイみあさ	3,628	3,755	4,186	3,986	3,798
合 計	17,681	16,092	15,814	16,830	17,149

【評価】

- 各事業所、サービス内容の改善と個別ケアの向上に努めた。
- 介護サービスの地域ネットワークの中で機能できる事業運営が求められる。

① デイサービスひなたぼっこ（認知症専用デイサービス）

項 目	事業結果・内容
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○開設日数 359日（12/29～1/3を除く毎日） ○平均契約者数 22人／月 ○年間延利用者数 2,598人（平均216人／月） ○新規利用者10人、利用終了者6人
希望に応じた計画の調整	<ul style="list-style-type: none"> ○提供時間の調整により自己負担額軽減となる支援を実施 ○家庭事情による協力として施錠、火元、照明管理を実施 ○年末入浴サービス（12月30日）11名
自主事業の実施	○生活リハビリの作業品目を増やし、提供
認知症進行の緩和	○介護者の要望（生活ニーズ）に応じた柔軟なサービスを提供
介護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流事業の企画運営（白塩町自治会との交流活動） 外出行事への支援ボランティア延12名。5回/年 企画運営 ・情報誌「ひまわりだより」5回/年 発行

● 年間延利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
要 介 護	1,877	1,940	1,952	2,321	2,598

【評価】

- 利用者の人生経験を生活リハビリに活かした認知症の緩和ケアを目指し、更なるサービス向上に努める。

② デイサービスこすもす（通所介護・介護予防通所介護）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 359日（12/29～1/3を除く毎日） ○平均契約者数 80人／月 ○年間延利用者数 6,391人（平均533人／月）
意欲的な生活に繋がる計画の提案	生活機能の維持に繋がるサービスを提案 活動内容に自主的な活動やグループでの活動が増加
運動機能向上及び生活機能向上グループ活動	運動器の維持を目的に、運動メニューと測定期間を定め評価を実施
生活の質の維持・改善のための支援	各種体操メニューを提供 自宅での実践もあり、効果を上げている
充実した入浴設備の活用	○特殊浴槽（機械浴）利用者1日平均5.3名（最大8名/日） 安全と心地よい入浴に配慮しながら提供 ○年末入浴サービス（12月29日）特殊浴槽利用者10名
情報発信	○芸能ボランティア団体のほか、幼稚園、小・中・高等学校等との世代間交流を行い、デイサービスの啓蒙に努めた ○「こすもす通信」4回/年発刊 アンケートの実施と結果の公表

● 年間延利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
要 支 援	1,158	1,541	1,809	2,637	2,449
要 介 護	6,861	5,423	4,798	4,292	3,942
合 計	8,019	6,964	6,607	6,929	6,391

【評価】

- 要支援の方は増加傾向にあるが、要介護者の方が入院や短期入所により大きく減少した。
○ 現在のサービス内容は、ケアマネージャーや新規希望者から軽度な利用者の多いデイサービスである印象を持たれがちだが、医療処置やリハビリを希望される利用者も増加しており、特殊浴槽のニーズも高くなっている。

③ デイサービスみさか（通所介護・介護予防通所介護）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 256日（毎週月～金曜日） ○平均契約者数 40人／月 ○年間延利用者数 4,362人（平均364人／月）
ニーズに応じた柔軟なサービス提供	○利用者・家族の急な都合等にも呼応したサービスに努めた ○利用者の出入りが多い年であったが、新規確保・利用回数増等で、週の中間（水・木）の利用者増に努め、目指す稼働の平準化を図った
新規利用者の確保	新規利用者 15名（八坂地区内9名・市内等6名）
自主事業の実施	○年末の入浴サービス 12/30（利用者9名）

● 年間延利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
要 支 援	234	290	276	570	836
要 介 護	3,923	3,143	2,793	3,024	3,526
合 計	4,157	3,433	3,069	3,594	4,362

【評価】

- 施設の特徴を生かすとともに可能な範囲の送迎に努めた結果、近年にない日々の利用者の受け入れが図れ、冬期間を除き稼働が増し大きな成果を収めた。
- 地域の方・利用者家族等の（みさか）好評価により、事業運営への励みに繋がった。

④ デイサービスみあさ（通所介護・介護予防通所介護）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 256日（毎週月～金曜日） ○平均契約者数 42人／月 ○年間延利用者数 3,798人（平均317人／月）
ニーズに応じた柔軟なサービス提供	○利用者・介護者のニーズに応えたサービス提供ができた
日々の利用者の安定的確保	生活機能向上を目的に広々とした施設空間を活用し、歩行訓練等を実施。利用者の目的に合わせたサービスを提供した
新規利用者の確保	地区内の医療機関より、新規利用の紹介があった
地区行事への参加	ミニあそびり教室（年4回うたごえ喫茶）、地区夏祭り等に参加
自主事業の実施	○年末入浴サービス（12/30）利用者14名
充実した入浴設備の活用	○一般浴槽には手すりが多く、歩行訓練に活用できた ○充実した入浴設備に満足され、新規利用につながる事例があった
介護者支援	来所されたご家族に、デイサービスの内容や介護用品について相談や説明を個別に実施
情報発信	デイサービスセンター新聞3回/年 発行。地区行事の際、配布

● 年間延利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
要 支 援	1,034	984	1,182	943	909
要 介 護	2,594	2,771	3,004	3,043	2,889
合 計	3,628	3,755	4,186	3,986	3,798

【評価】

- 利用者の総数が減少傾向となったが個別ケアの向上に努めた。
- 地震の影響で遠方に転居された方が、利用の継続を希望される事例があった。利用者に居心地の良いサービス提供を心がけた。

自分から 声をかけよう 気持ちよく

(大町北小学校3年 榎野 湧水 さん)

たくさんの 笑顔が花咲く 大町市

(大町東小学校6年 太田 颯貴 さん)

平成26年度福祉啓発標語入選作品

4. 障がい者福祉の推進

障がいがあっても、個々の持つ能力を活かし、地域で豊かな日常生活を送るため、障がい理解促進事業、障がい者余暇活動支援事業、障がい者就労支援事業、障がい者地域生活支援事業、障がい福祉サービス事業を実施しました。

● 障害福祉サービス収入の推移 (単位：千円)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
自立支援給付費収入	81,712	85,557	84,989	84,744	81,517

【評価】

- 障がい福祉サービス計画事業始め関係機関との連携により、利用者の様々な角度からの希望ならびに利用者情報が見え、より利用者により添ったサービス提供が、わずかずつではあるが進み始めている。

(1) 障がい理解促進事業

障がい福祉に関する情報提供や地域住民との交流会を通じて、地域における障がい福祉の理解促進に努めました。

項 目	事業結果・内容
障がいの理解促進のための情報提供や講座・講演会等の開催	自立支援協議会で勉強会を開催 ①11/13「住民参加型福祉施設なごみ家見学」宮田村 参加者 8 名 ②11/22「障害者権利条約を知っていますか？」 池田町総合福祉センター 参加者 66名
市内小中学校の体験実習受入れを通じた啓発活動	・大町市立第一中学校 1 年 3 組との交流会 2 回 (5 月、10 月) ・大町市立仁科台中学校 2 年生 1 名、職場実習受け入れ (9 月)

【評価】

- 「障害者権利条約」が批准された。障がい者への差別を禁止し、基本的人権の尊重などをうたった意義深い内容なので障がい者にとって、とても重要な条約と位置付けられる。これから先も勉強会を重ねていく必要がある。
- 「より深く理解するために」との中学生側からの発案により、交流会は 2 回行われ、利用者も中学生もしだいに打ち解け、障がい理解促進に効果があった。

(2) 障がい者余暇活動支援事業

障がいのある方が参加しやすい旅行や交流会の開催、スポーツ大会や音楽会等のイベント情報の提供を通じて、障がい者の社会参加を促すための環境づくりに努めました。

項 目	事業結果・内容
障がい児・者希望の旅事業の実施	9/5 山梨県への旅行を実施。介助スタッフの同行で「信玄餅の桔梗屋」「ハイジの村」で見学や買い物を楽しんだ。 ○ 参加者 48 名
知的障がい者の余暇活動支援等の企画	居住市町村や年齢の枠を超え一緒に行動し楽しむことを通じて親睦を深める企画を実施。また、普段あまり行かない目的地で様々な体験をした。 11/8「長野市少年科学センター」及び「長野市城山動物園」 ○ 参加者 48 名

項 目	事業結果・内容
大北地区障がい者運動会への参加	6/21(土)障害福祉サービス事業所として参加(利用者・職員計 20 名)職員付添のもと全競技に参加。競技「大北の合戦」用の小道具を事業所で制作し、当日使用
ピアサポート事業支援	障がいを受容し、自信を取り戻す取り組みや、外出や仲間づくりを支援 ①11/8「障害者権利条約について学ぼう」大田市総合福祉センター 参加者 8 名 ②12/14「まつもと 音楽フェスティバル」松本市民芸術館 参加者 8 名 ③3/14「いちご狩体験」みはらしファーム 参加者 16 名 ④3/4「ピアカウンセリング集中講座」大田市総合福祉センター 参加者 9 名 視覚障がい者に向けた音声パソコンや情報機器の習得講座を実施(経験豊富な講師による自立生活相談を含む) 延参加人数 17 名
重度障がい者外出支援	障がいにより日ごろ外出が困難な方に対し、外出のきっかけをつくるために自宅からの外出を支援 5 回実施
余暇活動の広報・啓発	サンアップル主催のスポーツ講座の広報や、旅行の情報を発信

● 障がい児・者希望の旅事業参加者数の推移 (単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
参加者数	34	40	48	42	48

【評価】

- 音声パソコン教室は平成 20 年より 7 年間の実施で終了とした。次年度からは身体障がい者を対象とした外出余暇支援を企画する。
- 「希望の旅」への参加で仲間との交流や、気分のリフレッシュはもちろん、就労相談や家族の介護相談につながる場合もあり、外出交流の支援は重要と思われる。



障がい児・者希望の旅 (9/5 山梨県「ハイジの森」)

(3) 障がい者就労支援事業

障がい者が地域で安心して働くことができるよう、障がい者・企業等双方への情報提供や就業に必要な訓練・実習などを支援し、障がい者の社会参加促進に努めました。

(社会福祉法人信濃の郷が大北圏域障害者総合支援センター内で実施)

項 目	事業結果・内容
障がい者の就労に向けた支援（職業準備訓練、現場実習機会の提供）	○支援対象障がい者数 151名 ○障がい者に対する相談・支援件数 1,283名 ○職業準備訓練及び職場実習の斡旋数 20件 ○就職件数 16件
障がい者雇用についての企業への働きかけ	障がい者短期トレーニング促進事業により、障がい者の短期職場実習（1カ月以内）に係る経費を実習者に支給 ・対象者：障がい者就業・生活支援センター登録者 ・利用者：8名（計62日）実施
公共職業安定所などの関係機関との連携	大町公共職業安定所雇用指導官と連携し、企業訪問を実施
就職後の職場定着支援	障がいを開示して就労している方の就労先へ定期訪問し、事業所の困りごとと在職者の困りごとについて調整を行い、職場定着を図った訪問以外では、就労後スクラム・ネットで面談、電話、メールでの相談支援を実施
障がい特性を踏まえた雇用管理についての事業所への助言	電話、企業訪問、支援会議等により、知的障がい者の職場実習後の雇用検討や、トライアル雇用期間中の精神障がい者の就労状況調査、発達障がい者の雇い入れに向けた調整、高次脳機能障がい者の職場復帰に向けた調整等を実施 相談・支援実施事業所 41事業所
障がい者雇用に関する制度や事例などの広報活動	独立行政法人高齢・障がい・求職者雇用支援機構より、障がい者雇用に関わる制度や事例紹介の情報提供（高次脳機能障がい者と働く精神障がい者のための職域拡大及び職場定着に関する職場改善好事例集等）があり、日々の支援、事業所訪問等により周知

● 大北管内における障がい者の就労実績の推移 (単位：人)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
就労障がい者数	29	15	16	17	16

【評価】

- 障がいを開示せずに就労している方については、本人と事業所の間でトラブルが生じても支援者が直接介入できないことから、働き続けることが難しいケースがある。
- 就業・生活支援センター事業継続にあたっての必須条件は満たすことができた。引き続き次年度の目標値に向け、就業・生活に関わる支援を充実させていく。

やさしさを 勇気にしよう 声がけを

(大町西小学校4年 丸山 紗英 さん)

福祉 口で言うより 手をかす勇氣

(一般の部 山崎 一彦 さん)

平成26年度福祉啓発標語入選作品

(4) 地域生活支援事業

利用者が安心して生活を送れるよう、保健・医療・地域の支え合い活動などと連携しながら、利用者の能力と生活状況に応じたサービス利用計画の作成、各種相談支援及び生活支援サービスを行いました。

① 障害福祉サービス計画支援事業（スクラム・ネット）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月～金曜日） ○年間計画作成件数 37件（平均3件／月） ○年間モニタリング件数 63件（平均5件／月）
特定相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 基本相談：障がい児・者やその家族からの相談に対し、関係機関と連携し、地域活動、福祉サービス、社会保障制度の利用等につなげ、自己選択・自己決定をしていく過程を支援 計画相談：障害福祉サービスを利用される方には、希望される生活像を伺いながらサービス利用計画を作成し、実現に向けて自己選択・自己決定をしていく過程を支援

● 計画作成・モニタリング件数の推移

（単位：件）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
計画作成件数	—	—	17	12	37
モニタリング件数	—	—	1	43	63

【評価】

- 福祉サービス利用を通じて集まる支援者会議では、本人を交えてそれぞれの専門性から提案・検討がなされ、モニタリングを重ねるごとに表情が和らぎ、具体的な提案や意見が出されるようになってきた。
- 社会資源に繋がらないでいることが大きな困り感であることが、基本相談に寄せられた内容から判った。
- 支援会議を有効に機能させるために本人の「希望する生活」を掲げ、支援会議の内容を1枚のシートにまとめることで支援の足跡となっている。

② 大北圏域障害者相談支援事業（スクラム・ネット）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月～金曜日） ○年間延相談件数 5,487件（平均457件／月）
来室、電話、訪問等での相談支援	使用できる相談室を複数確保し、スムーズな相談対応を実施
管内町村へ出張相談	○池田町4回、白馬村2回、小谷村4回 延相談件数 3件 相談件数が減少しているため、今後ニーズを明らかにして出張相談のあり方を検討
ピアカウンセラーによる相談支援	自らも障がいがある相談員が安心して話ができるような雰囲気作りをしながら対等な立場で話を聞き、その経験を活用した相談支援を実施
一般相談支援事業	精神病院の退院を控えた患者に対し不安を除去し、地域の情報提供や同行しての体験等を実施
当事者団体等支援	地域で自主的に活動している当事者団体や家族会への助言を実施 自立支援協議会当事者部会の活動に協力し、互いの知識増強を図った
自立支援協議会の運営	全体会と各専門部会を組織し、共通の目的に向けた情報の共有と関係者によるネットワークの構築を図った

● 年間延相談件数の推移

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
相談支援件数	5,844	6,545	6,724	6,423	5,487

【評価】

- スクラム・ネット、まいさぼ大町、日常生活自立支援事業が同室になったことで、課題ケースについて多面より情報共有が可能になった。
- 圏域として必要な社会資源創出には、自立支援協議会を中心に協議をする意識付けができてきた。その一つとして、来年度には成年後見支援センター設置協議会（仮名）が発足してセンター設置に向けた協議が始まる。

③ 療育支援事業（スクラム・ネット）

◆ 障害児等療育支援事業

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月～金曜日） ○年間延相談件数 1,736件（平均144件／月）
乳幼児フォローアップ教室（あそびの教室等）	各市町村で実施されている教室に専門職員が参加し、療育内容や支援の方向性についての助言を実施（各市町村1～2回／月）
ソーシャルスキルトレーニング（社会生活機能訓練）	松川村、池田町、白馬南小で実施されている SST 教室等に参加し、対象児への直接指導や支援者への助言を実施
ペアレントトレーニング（父母等に向けた子供への関わり方の教室）	池田町で1年を通して開催し、父母等への助言を実施 白馬村での開催に参加し、活動状況を把握
研修会の開催（保育園、学校、施設等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ SST についての研修会（4回） ・ 子どもへの関わり方についての研修会（3回） ・ 作業療法士による感覚統合の研修会（2回） ・ 臨床心理士による保護者対象研修会（9回）

● 年間延相談件数の推移

(単位：件)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
訪問療育等支援事業	569	592	547	506	456
外来療育等支援事業	277	1,023	725	498	1,040
施設支援一般指導事業	550	922	829	972	566

【評価】

- 訪問療育等支援事業では、障がい特性の理解、医療機関の活用、保護者の不安軽減等を促すことができた。また、各市町村で PT 相談が導入されたことで、早期に療育支援へつながるケースが増えた。
- 外来療育等支援事業の SST では、対象児の行動改善により、療育の必要性を支援者や保護者が実感し、支援に対する抵抗感や偏見を軽減することにもつながった。圏域全体として関心が高い内容なので、自立支援協議会で研修会を実施していく予定。
- 同事業の集団療育（作業療法士が実施）では、支援のモデリングを示すことで、具体的な支援内容の伝達や日常への変化につながった。また、療育コーディネーターが同時に児童の観察を行うことで、クラス運営についてのや個別支援についての助言を効率的に行うことができた。
- 施設支援一般指導事業では、講演会や支援者との相談を通して、障がい特性理解、学級経営における支援技術向上等を促すことができた。

○ 親の会やぶれジョブなどの活動に療育コーディネーターが参加することで、活動の活性化を図ることができた。

◆ 児童発達支援巡回相談事業

項 目	事業結果・内容
児童発達支援巡回相談事業	各市町村とのスケジュール調整で作成した年度計画に基づき、コーディネーターと専門職員が、圏域内の保育園・幼稚園・小学校・中学校を巡回し、保護者や支援者への相談支援を実施 ○ 保育園等訪問回数 879件 (月平均 73 回)

【評価】

○ 関係機関からの計画以外の巡回相談の要請も多かった。

◆ 発達障害サポート・マネージャー事業

項 目	事業結果・内容
発達障害サポート・マネージャー事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別のケースは73件、延310回の相談を実施 ・ 中学校8校、高等学校4校への巡回相談(延57回) ・ 県は全国に先駆けこの事業を立ち上げたため、県への事例検討や報告アンケートなどに協力 ・ 保育園の5歳児相談に向けた保護者研修会講師(3回)

【評価】

○ 中学校高等学校はその先の進学及び就労につながっているため、保護者にも早い段階からの本人の特性についての理解と、場合によっては検査や受診をして準備をする必要がある。また、学校以外で支援をしてもらえる機関につなぐ役割を担っている。

④ 障害者地域活動支援センター事業（ハーモニー・ルーム）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 246日(毎週月～金曜日) ○ 平均契約者数 26人/月 ○ 年間延利用者数 1,749人(平均146人/月)
趣味を生かした講座型事業の実施	利用者が張り切って家から出かけられるよう、趣味を生かせる21講座を展開。講座運営に生かす目的で、職員も講習会等に参加
健康づくりのための機能訓練、外出等	機能維持、体力向上を目標に月一回機能訓練講座を実施
地域との結びつきを重視したサービスの提供	市役所市民ホールを借りての作品展示「ハーモニー展」を開催 大町市文化祭、長野県障がい者芸術祭への参加 23名(過去最多)

● 年間延利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年間延利用者数	1,360	1,279	1,698	1,633	1,749

【評価】

○ 講師が、他の講座に参加することで講座どうしの繋がりが持てるようになってきた。
○ マレットゴルフは熊騒動により少し控えたが、映画鑑賞や美術館見学はにぎやかに実施できた。
○ 利用者同士の情報伝達、関係機関からの情報等により、見学者や新規利用者は着実に増えつつある。

⑤ 移動支援サービス（居宅介護事業所）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 365日（年中無休） ○平均契約者数 2人／月 ○年間延利用時間数 121時間（平均10時間／月）
屋内外における移動困難の軽減	通院・余暇等、希望に応じた支援を実施

● 年間延利用時間数の推移（単位：時間）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年間延利用時間数	410	253	214	210	121

【評価】

- 通院や余暇支援等、利用者の希望に応じているが、生活状況の変化や体調不良により、外出の機会は減少傾向となっている。

⑥ 日中一時支援事業（多機能型障害福祉サービス事業所）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 365日（年中無休） ○年間延利用時間数 603時間（平均50時間／月）
利用者への一对一の支援	利用者1名にサポーター1名を手配して支援を実施 重度障がいの利用者には慣れ親しんだサポーターの配置と増員で支援
登録サポーターの整備	登録サポーター 12名

● 年間延利用時間数の推移（単位：時間）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年間延利用時間数	847	656	518	515	603

【評価】

- 利用者及び保護者からの信頼は以前にも増して厚くなっており、利用時間は増加した。
- サポーターが都合で支援できないこともあり、後継のサポーター育成が急がれる。

⑦ いこいの家事業（多機能型障害福祉サービス事業所）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 42日（毎週月曜日） ○年間延利用者数 174人（平均15人／月）
利用者が安心して活動できる場所・機会の提供	利用者の希望による室内、野外での軽スポーツ、レクリエーション、季節行事など、多彩な活動を提供し、利用者からの相談にも適宜応じた

● 年間延利用者数の推移（単位：人）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
いこいの家利用者数	185	194	213	233	174

【評価】

- 利用者数としては減ったが、高齢により参加回数を減らしたり、就労支援事業所にステップアップした人もいる。利用者はここでの時間をとても楽しみにしている。
- 精神障がい理解の深いボランティアに恵まれ、充実した活動ができている。今後は後継ボランティアの育成について、関係機関と相談しながら考えていく必要がある。

(5) 障がい福祉サービス事業

利用者が安心して自立した日常生活を送れるよう、保健、医療、地域の支え合い活動等と連携しながら、利用者の能力と生活状況に応じた各種障がい福祉サービスを提供しました。

① 障がい者居宅介護事業

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 365日（年中無休） ○平均契約者数 29人／月 ○年間訪問時間数 6,751時間（平均563時間／月）
障がい者の生活の維持向上	定期的な訪問でヘルパーと会話することで、生活への意欲が生まれるよう、話し相手にも努めた
研修による障がいについての心身の理解	定期的な研修により、障がいによる心身状態の理解に努めた
関係機関との連携による支援態勢の強化	行政や相談支援専門員との連携により、計画相談を踏まえた調整を行い、双方で情報共有した

● 年間訪問時間数の推移 （単位：時間）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
年間訪問時間数	5,386	6,408	6,800	6,581	6,751

【評価】

- 対象者の高齢化により介護保険への移行が増加しているが、新規利用希望者もある。
- 障がい者のサービス利用頻度は高く実績は上がるが、身体状況の変化に伴い入退院をくり返すことも多いため、実績に変動が生じやすいのが現状である。

② 多機能型障害福祉サービス事業

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月～金曜日） ○平均契約者数 46人／月 ○年間延利用者数 8,106人（平均676人／月）
個別支援計画の作成	関係機関との連携とモニタリングにより、利用者のニーズを把握し、6カ月毎に更新
利用者健康診断の実施	希望する利用者全員の健康診断実施（35名）
散歩等による運動機能向上	センター内、運動公園ほかでの機能訓練や筋トレ、散歩の実施 84回／年
スポーツ、レクリエーション等の実施	○日帰り旅行（5/23 伊那・駒ヶ根方面） ○中村・吉良コンサート（7/7） ○安曇養護学校見学会（9/17） ○焼き肉会（10/7） ○きょうさん交流会（11/21 安曇野市） ○劇団四季ミュージカル観劇（12/2 塩尻市） ○クリスマス会（12/22） ○新年会（1/27） ○大町地区社協レクリエーション交流会（カーレット競技ほか）（3/20 児童センター）
リハビリ訓練の実施	○リハビリ体操 41回／年 ○ピラティス（体幹機能訓練） 15回／年

項 目	事業結果・内容
看護師によるケアの充実	常勤看護師による利用者の健康管理（バイタルチェック等）や体調不良時、緊急時の医療的対応
定期受注の確保と新規作業の開拓、営業	信越電装(株)、(株)レチトン、雷鳥の里本舗田中屋、丸佐食品、(株)メディックス昭和、ホクト(株)、バザール小町、わっぱら屋、大町市役所、山岳博物館
短期受注の積極的な受け入れ	ハサイダーラベル貼り、赤い羽根差し込み、労金ティッシュ・チラシ封入、信越電装カレンダー封入・発送、県セルフセンター協議会斡旋の事務用「エコフラットファイル」製造販売、同ロンドロール（トイレットペーパー）取り扱い事務
自主製品の改良、新製品の開発、販路の拡大	藍染や草木染への工夫も引き続き行い、アースデイ・ウェルフェアトレード等の視察により他事業所自主製品の見学を実施
地域のイベントへの参加	えべえべ祭（4/20 白馬村）、陶心販売会（5/7 安曇野市）、大町病院祭（5/18）、雪形まつり（6/8 市文化会館）、大北地区障がい者運動会（6/21 市総合体育館）、八坂老人スポーツ祭（7/3 八坂小学校）、みさか納涼祭（7/25）、ナイスハートバザール（7/26・27 松本市）、夢ファームサマーフェスタ（8/30 松川村）、市民ふれあい広場（10/11 市文化会館）、大北ブロックボランティア地域活動フォーラム（10/7 小谷村）、大町市老人体育祭（10/23 市運動公園）、ピュアフェスタ（11/9 平公民館）、自立支援協議会勉強会（11/22 池田やすらぎの郷）、大町市ボランティア交流研究集会（1/31 サン・アルプス大町）、ナイスハートバザール（2/11・12 松本市）
自主製品販売会の実施	毎月第3木曜日 センターロビー 9:30~15:30
喫茶「すまいる」の営業	毎週木曜・金曜日営業 10:00~15:00 コーヒーの出張販売 センター内会議 25回、外部販売会 2回

● 年間延利用者数の推移 (単位：人)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
就労継続支援B	5,281	5,013	4,747	3,946	4,496
生活介護	4,469	4,808	4,206	4,960	3,610
合 計	9,750	9,821	8,953	8,906	8,106

● 事業区分別契約者数（平成27年3月末現在） (単位：人)

事業所名	生活介護（障害程度区分別）						就労継続支援B型	合計
	1	2	3	4	5	6		
ひまわりの家	0	3	2	7	2	0	22	22
たんぽぽ	0	0	0	1	3	5	0	9
すずらん	0	0	0	0	0	0	11	11
合 計	0	3	2	8	5	5	33	42

【評価】

- 夏期間受注したハサイダーラベル貼りと、冬期間の焼芋により僅かながら工賃は上向き傾向。自主製品の石鯛とぼかしは目玉商品であるが、量産がきかないため今後の課題。
- 就労支援Bと生活介護の利用者が混在するため、受注量によっては余暇支援の時間も作業しなければ納品が間に合わない場合もあり、支援計画をどのようにして確実に実行していくかが課題。

5. 経済的支援活動の推進

さまざまな事情で経済的に困っている方々が生活意欲を取り戻せるよう、一時的な資金の貸付と生活相談を行いました。

また、火災や自然災害等で被災した世帯に対し、当面の生活確保に必要な支援を行いました。

(1) 資金貸付事業（小口資金・生活福祉資金）

低所得世帯、障がい者世帯又は高齢者世帯等に対し、経済的自立と生活意欲の助長を図るため、各種資金の貸付と生活相談を実施しました。

項 目	実施結果・内容
関係機関と連携した自立支援の推進	貸付相談の都度、行政やハローワーク、まいさぼ大町等関係機関と連携し、相談者の自立支援を図った
定期的な償還指導、償還依頼通知の発送	小口資金では、借受人宅訪問等による償還指導を実施 生活福祉資金では、長野県社会福祉協議会の指導により、長期滞納者に対し訪問償還指導を実施
滞納整理、返済不能金の欠損処分	借受人死亡による親族調査及び行方不明者等の調査を実施 ○欠損処分2件、○延滞利子減免1件
小口資金貸付運営要綱の改正	貸付利子、延滞利子の金利を引き下げる一部改正を3月の理事会・評議員会に提出

● 生活福祉資金貸付状況（平成26年度中）

資金種別		貸付申請		貸付決定		年度末貸付金残高		完済 件数
		件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
小口資金（大町市社協）		8	384,929	8	384,929	25	3,670,555	12
生活福祉資金 （県社協）	総合支援資金	0	0	0	0	10	3,408,250	1
	緊急小口資金	2	109,000	2	109,000	14	1,132,735	2
	教育支援資金	1	479,000	1	479,000	18	6,530,736	0
	福祉資金	1	1,380,000	1	1,380,000	14	11,008,798	5
	合 計	4	1,968,000	4	1,968,000	56	21,080,519	8

※ 年度末貸付金残高には利子・延滞利子を含む

※ 完済件数には欠損処分及び延滞利子減免件数を含む

※ 離職者支援資金は総合福祉資金を含む

● 貸付決定件数の推移

（単位：件）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
小口資金（大町市社協）	3	1	4	4	8
生活福祉資金（県社協）	19	22	3	4	4

● 年度末貸付金残高（元金）の推移

（単位：千円）

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
小口資金（大町市社協）	1,889,078	1,675,000	1,422,000	1,338,500	1,251,500
生活福祉資金（県社協）	11,724,249	16,289,772	15,055,526	15,705,578	15,951,128

【評価】

- 小口資金では、償還指導により完済者が増えた。また、生活保護受給決定までの生活費やライフラインが止められたことによる貸付を行い、生活の安定が図れた。
- 生活福祉資金では、初回給料までの生活費、住宅改修、修学資金等について貸付し、生活の安定が図れた。

(2) 災害見舞金等支給事業

市内で発生した火災等の災害により被災した世帯の状況に応じ、災害見舞金・援護物資を支給しました。

項 目	実施結果・内容
寝具等の支給	被災世帯の要請に基づき、寝具一式を支給 ○12月12日(金) 住家火災 寝具5セット支給
災害見舞金の支給	本会災害見舞金等支給要綱に基づき、見舞金を支給 ○神城断層地震被災世帯 72世帯 ○住家火災被災世帯 0世帯 ※ 2件の住家火災が発生したが、故意による出火及び本会会員でない世帯であったため、支給なし。
共同募金災害援護金の支給	長野県共同募金会災害援護金支給配分要綱に基づき、援護金を支給 ○神城断層地震被災世帯 6世帯(半壊以上の世帯が対象) ○住家火災被災世帯 1世帯 ※ 災害援護金は、本会会員に限らず支給するため1世帯へ支給。故意による出火については、非該当。
交通・災害遺児見舞金、就職激励金	○該当事例の把握のため、市教育委員会並びに子育て支援課へ本事業の紹介協力を要請 ○県社協からの要請により、過去の見舞金支給遺児の就職状況調査を実施(市外へ転居していただき、以後県社協へ調査を引き継ぐ) ○本年支給実績なし

● 災害見舞金等支給実績の推移

(単位：件)

年 度	H22	H23	H24	H25	H26
寝具支給数(組)	7	0	18	0	5
見舞金支給数(世帯)	4	3	5	0	72
見舞金支給額(円)	18,000	11,000	43,000	0	230,000

【評価】

- 本年度11月に発生した「神城断層地震」被災世帯への見舞金については、市行政と密に連絡調整を行い、迅速かつ適切な対応ができた。
- 今後も、市行政等関係機関との連絡調整に努める。



神城断層地震で陥没した道路(11/25 小谷村)

(3) 生活困窮者等自立支援モデル事業

生活困窮者からの相談に応じ、相談者に寄り添いながら、就労等自立に向けて必要な支援を行いました。（長野県社会福祉協議会が大田市総合福祉センター内で実施）

項 目	実施結果・内容
ワンストップ型相談窓口の設置	大北生活・就労支援センター“まいさぼ大町”を開設（4/14） 合わせて、長野県社会福祉協議会無料職業紹介所大北事務所を開設 主任相談支援員 1 名、相談就労支援員 1 名を配置し、包括的な相談支援を実施（職員 2 名を長野県社会福祉協議会へ出向） ○開設日数 234日 毎週月～金曜日（祝日・年末年始を除く）9:30～17:00 ○年間延相談件数 369件（平均31件／月）
相談者の自立に向けた支援計画の作成	行政、受託団体、関係支援団体等の出席を得て、自立支援プランの適正性の協議、支援提供間での共有、プラン終結等評価等を行うため、支援調整会議を開催 ・第1回 10月16日(木) 32名 ・第2回 2月 5日(木) 26名 継続14名
関係機関との連絡調整	○信州パーソナル・サポート・モデル事業県域連絡会の参画 第1回 9月 5日(金) ・生活困窮者の相談支援に係る連携やネットワークづくりについて ・生活困窮者支援を通じた地域づくりについて 第2回 3月 6日(金) ・県域での事業進捗状況と資源開発の状況等について ○信州パーソナル・サポート・モデル事業大北地域連絡会の実施 第1回 10月16日(木) ・生活困窮者の相談支援に係る連携やネットワークづくりについて ・生活困窮者支援を通じた地域づくりについて 第2回 2月24日(火) ・子どもや若者をとりまく生活問題及び継続的な支援について ○長野市ななせなかまち園による食糧支援実施（随時） ○市包括支援センター研修会に出席し事業説明（4月） ○大北管内の介護保険事業所に対しニーズ調査実施（6月） ○大北管内の民生児童委員に対し事業説明及びニーズ調査実施（9月） ○中信地区人権教育実践カススキルアップ講座に出席し事業説明（11月） ○自殺防止地域連絡会に出席し事業説明（2月） ○県弁護士会との共催によるくらしとこころの総合相談（年2回） ○行政、福祉関係、NPO法人等個別に訪問 ○毎月1回のセンター長会議に出席 ○法定研修 自立相談支援事業従事者養成研修（主任相談支援員研修） ○法定研修 自立相談支援事業従事者養成研修（相談支援員研修）

●月別新規相談者数（男女別）

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	2	4	7	7	5	3	8	4	2	5	10	17	73
女	0	4	3	2	0	1	4	3	0	2	4	9	32
合 計	2	8	10	9	5	4	11	7	2	7	14	26	105

●年代別・市町村別相談状況

(単位：人)

年 代	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	不明	合計
10代	0	0	0	0	0	2	2
20代	3	0	1	1	2	0	7
30代	7	3	1	3	0	0	14
40代	13	1	3	2	1	1	21
50代	13	3	0	2	2	0	20
60～64 歳	5	1	0	0	1	0	7
65 歳以上	15	3	0	1	2	0	21
不明	7	0	1	1	0	3	13
合 計	63	11	6	11	8	6	105

●個別支援相談対応延回数

(単位：回)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談件数	7	26	21	24	34	19	27	49	42	34	56	86	369

●初回相談の主訴

(単位：件)

項 目	件 数
健康・障害	11
住まい	7
食糧等の現物支給	0
生活保護の相談	0
家計・貸付・債務相談	37
就労支援(一般)	21
就労支援(障害)	3
就労準備支援(対人関係等)	0
家族関係(子育て、介護)	0
ひきこもり、不登校	10
その他	16
合 計	105

●地域支援（関係機関等へのPR 訪問、研修、打ち合わせ、連絡調整等）

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件 数	2	1	12	1	17	7	5	3	3	0	2	17	70

【評価】

- モデル事業として自立相談支援事業を実施した。生活保護に至る前の支援であるが、訪問支援をしていくと複合的な問題を抱えており、経済的困窮ばかりではなく、社会的孤立の解消に向けた支援や見守りも必要である。
- 9 名が就労に結び付き、4 名が生活保護申請となった。当面の間は生活保護受給者が増加すると思われる。
- 大北管内は、稼働世代の 40 代から 50 代の方からの相談が多く、大人のひきこもりの相談がある。支援につながるまでに時間がかかり、長い方で半年かかっている。短期的には解決できないため、継続的なアプローチが必要である。
- 事業地域連絡会を2回開催できた。ネットワークづくりと社会資源の開発に向けて、行政、関係機関、団体と連携しながら進めていく。
- 相談のなかには、家計・貸付・債務相談が多い。今後、任意事業である家計相談支援事業実施について検討していく。

Ⅳ 受け継がれるまちづくり

地域福祉活動を継続的に展開するため、住民の福祉意識の高揚と担い手の育成に努めました。

1. 地域における福祉意識の啓発

広報等による福祉情報の発信や住民参加型啓発活動を通じて、地域住民の福祉意識の啓発活動を実施しました。

(1) 福祉情報発信事業

項 目	実施結果・内容
機関紙「社協おおまち」の発行	年6回（偶数月1日）全戸配布9,800部を発行 「問題提起・解決型」の要素を取り入れ、内容充実に努めた
ホームページの充実と活用	より閲覧しやすいホームページにリニューアルした 各申請書類様式や広報紙等のダウンロードを可能とし、タイムリーな記事の掲載に努めた

● 機関紙「福祉のまちづくり」の発行内容

号 数	発行日	主な記事
169号	4/1	(表紙)障がい者作業所自主製品紹介/H26年度事業計画、予算/障がい者作業所自主製品利用者インタビュー/小地域福祉ネットワーク活動紹介/パーソナルサポートセンター開設/社協一般会費のお願い
170号	6/1	(表紙)J I N R I K Iでお出かけ(びすたりライフで利用)/特集!生活支援制度紹介/まいさぼ大町紹介/市民ふれあい広場参加団体募集
171号	8/1	(表紙)ゆずり葉の会 とっちり一座の寸劇「食の大切さ」/座談会「高齢者の食を考えてみませんか」/インタビュー「食について」/大町市総合福祉センター利用について/社協特別会費のお願い
172号	10/1	(表紙)企業ボランティア活動「北陽建設㈱の清掃活動」/特集!災害を地域で考える/インタビュー「地域防災あなたの地域は」/市民ふれあい広場開催について/赤い羽根共同募金について/雪かき支援員募集
173号	12/1	(表紙)大船渡市 サクラ苗木植樹/特集!東北復興支援の状況/共同募金「安心安全なまちづくり公募配分」申請団体インタビュー/社協の1年/特別会費協力のお礼(特別会員名簿掲載)/年々年始公衆浴場利用案内
174号	2/1	(表紙)年男男女25名/特集!白馬村堀之内地区から学ぶ地域防災/インタビュー「今年チャレンジしたいことは」/神城断層地震での支援活動/赤い羽根共同募金お礼(大口募金者名簿掲載)/福祉啓発標語入選者決定/知って得する「相続知識」受講生募集

【評価】

- 広報紙については、タイムリーな話題を問題提起形で掲載し、好評を得ている。
- ホームページをリニューアルし、閲覧しやすいホームページとなった。引き続き、直近の話題を掲載していく。

あいさつで 友だちどんどん ふえていく

(大町北小学校3年 栗林 慮雨 さん)

平成26年度福祉啓発標語入選作品

(2) 地域福祉意識啓発事業

項 目	実施結果・内容
市民参加型啓発事業の実施（福祉標語募集等）	○福祉啓発標語の募集 応募点数：約300点（小学校低学年から一般まで） 選考委員により19点の優秀作品を選考 入選作品は、市総合福祉センター内に展示するとともに、ボランティアニュースや社協文書に掲載し福祉意識の啓発に努めた
顕彰の実施（社会福祉功労者等の表彰）	10月11日（土）開催の市民ふれあい広場オープニングセレモニーにおいて、社会福祉功労者表彰と多額金品寄付者への感謝状を贈呈

○表彰者数（個人9名、団体7団体）

区 分	表彰基準	表彰者数
表 彰	民生児童委員	1名
	社会福祉事業団体役員	7名
	優良活動団体	2団体
感謝状	多額金品寄付（個人）	1名
	多額金品寄付（団体）	5団体

【評価】

- 福祉啓発標語は、各学校での取り組み状況にばらつきがあるが、年度当初から募集依頼をし、より多くの学校が取り組めるよう努める。
- 会議資料等に掲載するなど、多くの方が目にできる方法で入選作品を周知していく。



平成26年度受章者の皆さん（10/11 市民ふれあい広場にて）

あいさつは みんなのこころ つなぐもの

（大町西小学校2年 上條 真穂 さん）

『ありがとう』 その一言で 花が咲く みんなで広げる 福祉の輪

（大町東小学校6年 柄澤 安佳里 さん）

平成26年度福祉啓発標語最優秀作品

2. 地域の担い手育成

地域住民や市内学校における福祉教育推進の取り組みや地元企業との連携態勢の構築を通じて、地域の担い手育成に努めました。

(1) 福祉教育推進事業

項 目	実施結果・内容
地域への福祉出前講座の実施	○地域等への出前講座 9回 (市立大町総合病院、小地域福祉ネットワーク等) ○高齢者疑似体験、レクレーション指導、ボランティアセンター業務紹介等を実施
小中高等学校での体験講座等の福祉相談支援	○学校への出前講座 小学校6校(延11回)、中学校4校(延6回)、高校1校(延16回) 高齢者疑似体験、車いす体験、手話学習、点字学習、アイマスク体験ほか ○社協事業を掲載した冊子を市内小中高校に配布し、事業説明と情報交換を実施 ○各学校の総合的な学習の時間に取り組む福祉体験事業についての連絡調整を実施
小中学生及び大人を対象としたボランティア講座の開催	○実施時期 6月～2月 9回 ○受講者数 延86人 実人数 27人 ○内 容 点字、手話、要約筆記、朗読、聴覚障がいの方との交流 車いす体験、盲導犬との交流等
ボランティア講座の開催	○一緒にお出掛けボランティア講座(2回開催、参加者延13人) 「お年寄りや障がい者の支援方法」 「シルバーカー・車いす・ジンリキの使い方」 「高齢者疑似体験」 「ガイドヘルプ体験」 ○サロンボランティア講座(4回開催、参加者9人) 「サロンに役立つレクレーション」 「南京玉すだれに挑戦」 「サロンでボランティア体験」 ○男性の料理教室(常盤公民館で1回開催、参加者7人) 「郷土料理おやきを作ろう」 指導者：ゆずり葉の会

(2) 企業ボランティア育成事業

項 目	実施結果・内容
企業へのボランティアに関する情報発信と協力依頼	○企業のボランティア活動を社協広報紙に掲載し、企業とのつながりを図った
災害時に備えた連携方法の検討	○神城断層地震の際、5企業から災害ボランティア登録をしてもらい、美麻地区及び小谷村で家の片付けやごみの運搬作業を実施

【評価】

- 地域のボランティアニーズに合わせ、外出ボランティアやサロンボランティア講座を開催し、福祉施設の外出支援や地域のサロンボランティアとしての活動につながった。
- 日頃から企業との顔の見える関係をつくり、災害時等のボランティア活動の協力態勢を構築していく。

3. 地域福祉活動団体の育成

市内で活動する福祉団体が実施する活動に対する相談援助や助成金の交付を行い、地域福祉活動を行う団体の育成を図りました。

(1) 小地域福祉ネットワーク活動推進事業

新規に設立するネットワークに対し、助成金を交付するとともに、設立までの相談支援を行いました。

項 目	実施結果・内容
新規設立ネットワーク活動助成事業	○新規設立ネットワークの申請に基づき活動助成金を交付 交付実績：3ネットワーク 110,286円
ネットワーク活動に関する相談支援	○新規設立希望の自治会に対し、設立までの手続きを始め、設立後の活動内容について、相談支援を実施

● 新規設立小地域福祉ネットワークへの助成金交付実績 (単位:円)

自治会名	ネットワーク名	助成額
八坂地区石原自治会	石原大滝の会	50,000
八坂地区切久保自治会	切久保友愛にこやか会	50,000
美麻地区新行自治会	新行小地域福祉ネットワーク	10,286
合 計		110,286

【評価】

- 市村合併後、ネットワーク設立に至らなかった八坂・美麻地区について、自治会長を対象とした説明会等を実施した結果、設立件数が増加した。
- 引き続き、ネットワークの必要性を説明しながら、新規設立を促していく。



八坂石原大滝の会会員研修 (2/6 白馬村仮設住宅)

家族の輪 地域の輪になり 福祉の輪

(一般の部 田邊 一弘 さん)

平成 26 年度福祉啓発標語入選作品

(2) 地域福祉活動団体育成事業

福祉団体やボランティア団体等への助成金の早期交付と活動支援を行い、地域福祉活動を行う団体の育成を図りました。

項 目	実施結果・内容
福祉団体等助成事業	○効率的・効果的に助成金を活用していただくため、早期交付に努めた ・助成金申請受付（4/30締切） ・助成金交付決定（5/7） ・助成金交付（請求書を受領次第随時交付とし、6月中に交付完了）
公募による新たな助成金事業の開発	事務局で検討し、地域におけるサロン活動等への助成について、共同募金組織改編と併せて整備していくこととした
ボランティア活動振興事業	○ボランティア団体が行う活動に対し、助成金を交付 ・助成団体数：19団体 501,440円 ○助成金申請説明会開催 5月13日（火）10団体参加
ボランティア活動保険加入助成	○登録ボランティアの活動保険掛金を一部助成 ・1人あたり 140円 1,602人 224,280円

● 地区社協助成金交付実績（会費財源）（単位：円）

地区名	地域交流事業	啓発活動事業	災害時支え合い活動事業	ネットワーク支援事業	合計
大町	152,000	100,000	0	683,900	935,900
平	100,000	100,000	0	167,500	367,500
常盤	167,000	0	0	180,000	347,000
社	167,000	0	0	169,700	336,700
八坂	80,000	10,000	0	50,000	140,000
美麻	153,000	0	0	0	153,000
合 計	819,000	210,000	0	1,251,100	2,280,100

● 福祉団体助成金交付実績（共同募金財源）（単位：円）

共同募金活動区分	団体名	助成額
老人福祉活動	大町市老人クラブ連合会	50,000
障害児・者福祉活動	大町市身体障害者福祉協会	35,000
	大町市手をつなぐ育成会	30,000
児童・青少年福祉活動	大町市母子寡婦福祉会	45,000
	大町市子ども会育成連絡協議会	50,000
福祉育成・援助・組織化活動	大町市民生児童委員協議会	55,000
	大町市保護司会	25,000
	大町市遺族会	30,000
	大町市更生保護女性会	10,000
合 計		330,000

ありがとう みんなでよろこぶ あい言葉

（大町北小学校3年 山口 采己 さん）

やさしさと 明るいあいさつ 町づくり

（大町東小学校6年 清水 大輔 さん）

平成 26 年度福祉啓発標語入選作品

● ボランティア活動団体助成金交付実績（会費財源）（単位：円）

団体名	事業内容	助成額
安曇養護学校大町地区PTA	地域貢献活動（施設花植え等）	24,000
大町市観光ボランティアの会	学習研修活動（ガイド研修）	11,440
大町市婦人会	地域貢献活動（おむつたたみ等）	4,800
大町市朗読グループかっこう	福祉教育啓発活動（朗読図書作成等）	10,400
大町点訳ほたるの会	福祉教育啓発活動（広報誌の点訳）	24,000
シニア大学常盤地区同窓会睦会	地域貢献活動（駅前草刈活動等）	24,000
おきあがりこぼし	学習研修活動（学習会）	16,000
傾聴ボラきくきく	学習研修活動（学習会）	24,000
賛助会大町グループ	地域貢献活動（福祉施設交流等）	12,000
ファミリーサポートバンビ	学習研修活動（子供向け調理実習等）	36,000
ゆずり葉の会	地域貢献活動（高齢者交流会）	40,000
アッサンブレ	啓発活動（障がい者との交流事業）	12,000
大町山岳博物館友の会	学習研修活動（ガイド研修会等）	32,000
おはなしの会「やしろ」	学習研修活動（学習会）	36,000
大町民話の里づくりもんぺの会	啓発活動（講演会）	40,000
市立大町総合病院	地域貢献活動（花植え等）	40,000
アルプスリンゴーズ	地域貢献活動（福祉施設訪問交流）	34,800
アースデイおおまち実行委員会	先駆的な活動（復興支援活動）	40,000
大町映像文化財を残す会	啓発活動（文化伝承）	40,000
合 計（19団体）		501,440

【評価】

- 助成金交付要綱改正後、早期交付の流れが定着している。
- 公募による新たな助成金事業の開発については、共同募金財源を予定しており、次年度以降共同募金組織改変と併せて検討していく。
- 現在も、事業に対する助成をしているが、対象事業については研究の必要がある。
- ボランティア活動助成金交付団体が新規を含め19団体に拡大した。引き続き広く周知し、助成金の活用を促していく。



ゆずり葉の会七夕交流会（7/24 上ー基幹センター）